年度	科目番号	科目名	分野	開講時期	学年	取得単位数
2024	1-01	保健体育	基礎	後期	1	2

講師名	実務経験・関連資格
小川　潤	実務経験：2002年（平成14年）4月～現在　群馬県私立高等学校、専門学校教諭歴任 資格：「高等学校保健体育教員免許専修」「JHCA フィジカルコンディショナー」

講義目的

近年柔道整復師は、スポーツトレーナーや指導者としての需要が高まっていることを受け、トレーニングやストレッチの方法を学ぶことで幅広い層の患者様に対して柔道整復師としての技術だけではなく、指導者としてのコーチング理論やスポーツトレーナーとしての知識技術を高めることで指導者として体のコンディショニング調整を行う基礎を身に付ける。

講義内容

スポーツトレーナーや運動指導者としての身体やトレーニングコンディショニング調整の基礎知識を高め、その知識を元に自ら実技を行う。またパートナーに対してこの技術を応用することで強弱や角度を知ることで、トレーニングやストレッチなどの効果を知ることが出来る。

前期授業計画		後期授業計画	
1		1	オリエンテーション コーチング理論の理解
2		2	コーチング理論の理解と実践
3		3	コンディショニング実践に必要な基礎知識
4		4	各関節可動域の動かし方・名称
5		5	トレーニング理論トレーニングの原理・原則
6		6	筋肉の収縮形態・実践
7		7	下肢のストレッチ①　下肢のトレーニング①
8		8	下肢のストレッチ②　下肢のトレーニング②
9		9	上肢のストレッチ①　上肢のトレーニング①
10		10	上肢のストレッチ②　上肢のトレーニング②
11		11	体幹のトレーニング①　俊敏性のトレーニング①
12		12	体幹のトレーニング②　俊敏性のトレーニング②
13		13	実技練習まとめ
14		14	期末試験
15		15	外部講師によるコンディショニング調整

講義の進め方（指導方法）

スライドを使用して講義を行う。また、必要に応じて自作のプリントを配布する。後半は実技中心の授業となるのでそれぞれが運動のできる格好、水分補給など適宜行うようにする。

成績評価（方法・基準）

定期試験・実技試験・授業態度・出席率によって評価する。

使用教材（教科書、教材等）

適宜配布資料にて対応する。

年度	科目番号	科目名	分野	開講時期	学年	取得単位数
2024	1-02	経営経済学	基礎	通年	1	4

講師名	実務経験・関連資格
田代　剛大	高等学校教諭一種免許状（公民）

講義目的

社会人として一般に必要とされる事柄を学ぶとともに、柔道整復師として必要な一般知識、マナーを身に付ける。「社会人常識マナー検定3級」合格を目指す。経済の基本的な知識を習得し、問題演習を通して、「経済記事の読み方検定3級」の合格を目指す。

講義内容

検定対策としては授業中心となる。さらに社会人としてあるべき姿勢を学ぶ。教科書に沿って講義形式で行う。さらに、可能な限り新聞の経済記事等を利用し、実践的な知識を身に付ける。学生諸君には、日常の経済を見る目を養うため、経済現象に常に興味を持って見る習慣をつけてもらいたい。

	前期授業計画		後期授業計画
1	豊かな仕事生活／会社のルールと勤務条件	1	経済用語と知識／「経済記事」読み方ポイント
2	仕事に対する基本姿勢／仕事への取り組み	2	需要・供給と価格
3	指示、報告と連絡・相談／仕事へのパソコン活用	3	景気がいい話／景気がわるい話
4	ビジネス文書の基本／社内文書の種類と役割	4	インフレとは
5	社外文書の種類と役割／表とグラフ	5	景気と物価／景気と金利／景気と為替
6	社会常識を高める情報収集／業種業界知識基本	6	なぜ、円高・円安になるのか
7	会社の仕組みと組織／社会保険と税金	7	円高と輸入産業／円高と輸出産業
8	職場の人間関係／就業中のマナー	8	金融機関の種類と役目
9	服装と身だしなみ／話し方の基本	9	マネーサプライとは
10	ことばづかい／話の聞き方と指示・命令の受け方	10	日本銀行の金融政策
11	電話応対／来客応対	11	株とは／国債とは／財政とは
12	名刺交換と面談の基本マナー／外部への対応	12	内外価格差とは／規制緩和の話
13	社会人常識マナー検定3級検定対策	13	経済記事の読み方検定3級検定対策
14	社会人常識マナー検定3級検定対策	14	経済記事の読み方検定3級検定対策
15	前期期末試験	15	後期期末試験

講義の進め方（指導方法）

教科書に沿って講義形式で行う。さらに、可能な限り新聞の経済記事等を利用し、実践的な知識を身に付ける。
社会人常識マナー検定3級／経済記事の読み方検定3級合格のための検定対策を行う。

成績評価（方法・基準）

授業出席率・受講態度及び課題提出・期末試験等を総合的に判断し評価する。出席率が70%を下回る場合は不可となる。

使用教材（教科書、教材等）

社会人常識マナー検定　3級　テキスト／社会人常識マナー検定　3級　問題集：全国経理教育協会
OIKOS－NOMOS：中央総合教育サービス

年度	科目番号	科目名	分野	開講時期	学年	取得単位数
２０２４	1-03	生物	基礎	通年	1	4

講師名	実務経験・関連資格
松井　裕之	高等学校教諭二級普通免許理科

講義目的

生物や生命現象に関わり、科学の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察等を行うことを通して、ヒトを含めた生命活動全般について、科学的に探究するための資質・能力を育成する。

希望進路実現のために、国家試験問題の正答を導くための基礎知識の定着を図る。

講義内容

下記の授業計画に示したとおり。※講義内で、小テストを実施して理解の定着を図り、年度末に加点する。

前期授業計画		後期授業計画	
1	生物の特性、生命の起源と進化と多様性	1	生殖と受精
2	遺伝情報、ＤＮＡ	2	発生のしくみ（体軸形成・誘導・再生）
3	ゲノム、遺伝情報の発現調節	3	刺激と感覚、神経のしくみ
4	遺伝子のはたらきと進化のしくみ	4	神経（電導）
5	細胞の構造と生体膜の性質（浸透圧）	5	神経（伝達）
6	物質代謝、エネルギー代謝、ＡＴＰ	6	受容器（眼）
7	細胞を構成する物質、タンパク質	7	受容器（耳）
8	体内環境、体液、免疫	8	受容器（鼻・舌・皮膚）
9	恒常性、自律神経	9	効果器（筋収縮）
１０	恒常性、ホルモン	１０	動物の行動と情報伝達、個体群、生態系
１１	恒常性、肝臓と腎臓	１１	環境の変化と保全
１２	演習と確認、試験対策	１２	演習と確認、試験対策
１３	演習と確認、試験対策	１３	演習と確認、試験対策
１４	試験	１４	試験
１５	前期のまとめ	１５	後期のまとめ

講義の進め方（指導方法）

1　生物や生命現象を広範囲に取り扱い、探究する能力と態度を身に付けさせる。
2　生物学の基本的な概念や原理・法則の理解を深めさせ、科学的な自然観を育てる。
3　自然を科学的に探究する能力を育て、自然環境の保全に寄与する態度を養う。
4　命の営みを学習することで生命に対する畏敬の念を育て、生命を尊重する精神を養う。
5　生物の共通性と多様性を学ぶことによりヒトの生命現象全般について理解を深める。
6　理解確認のために、配付プリントで示した内容から出題した小テストを実施する。

成績評価（方法・基準）

1　生物学の知識を理解するとともに、ヒトの生命現象とも関連付けて理解したか。
2　生物学に関する興味・関心を深め、科学的に探求しようとする態度が身についたか。
3　日常生活や社会と関連を図りながら基本的な知識を身につけたか。
4　単元別の演習テスト（理解の確認）　及び　定期考査試験（知識定着の確認）

使用教材（教科書、教材等）

二訂番ニューステージ生物図表』（浜島書店）

年度	科目番号	科目名	分野	開講時期	学年	取得単位数
2024	1-04	英語	基礎	通年	1	4

講師名	実務経験・関連資格
井田　夕子	高等学校教師（英語）

講義目的

国際化に対応した人材を育成するため、日常生活や医療現場で使われる機能的動作の表現などの基礎的な英語を理解し、習得する。

講義内容

教科書「運動・動作の英語表現」の中から基本的な英語や文を理解する。

前期授業計画		後期授業計画	
1	自己紹介、教科書説明 Basic Human Anatomy, Body parts, Skeletal System, Types of bones	1	Section 9/10
2	Body parts review, verbs of movement	2	Functional Assessments① 62-66
3	Types of muscles, verbs of movement	3	Functional Assessments② 66-69
4	Lying Position① physical exercise 38-40 教科書	4	Diagnostic tests 70-75
5	Lying Position② physical exercise 40-42 教科書	5	Positioning 76-81 “Practical Training”
6	Sitting Position① 43-45 教科書 review	6	Section 11/12
7	Section ①②③ 8-15 教科書 “Injuries Introduction”	7	Medical Questionnaire 骨の英語名
8	Standing Position①46-47 “Major organ functions”	8	Practical Training Patient Registration For 登録表紙(copy 資料)
9	Standing Position②48-49 “Practical Training”	9	Expressions for Registration 受付表現(copy 資料)
10	Section④⑤ Passive ROM Exercise50-51	10	姿勢(posture) 痛み(pain) 運動(movement) 呼吸(respiration) 29-32 (copy 資料)
11	Muscle Test : Upper Body①52-54	11	医療面接の開始①
12	Muscle Test : Upper Body②55-58	12	医療面接の開始②
13	Section⑥⑦⑧ Review(copy 資料)	13	教科書 Sections total Review
14	中間試験	14	期末試験・練習
15	Lower Body ① 59-61	15	期末試験

講義の進め方（指導方法）

動画、PPT、ワークシート、実習、教科書を使ってさらに体を動きながら専門英語を学ぶ

成績評価（方法・基準）

授業態度、中間、期末試験

使用教材（教科書、教材等）

教科書、動画、PPT、ホワイトボード

年度	科目番号	科目名	分野	開講時期	学年	取得単位数
2024	1-05	解剖学Ⅰ	専門基礎	通年	1	2

講師名	実務経験・関連資格
川上　貴洋	歯科医師

講義目的

ヒトの身体の構造（解剖学：Anatomy）、機能（Rhysiology）を理解することは、柔道整復師として臨床現場で外傷に対し施術する際に必要不可欠な知識である。本講義の目的は下記に示す。

1. 人体の構造における用語、細胞・組織、人体の初期発生について理解し、説明できる。
2. 運動系（骨格・筋・関節）について理解し、説明できる

講義内容

解剖学（Anatomy）とは、人体の形態・構造を研究する学問であり医学・医療を学ぶ上での重要な基礎医学の一つです。解剖学は肉眼による観察を主とする肉眼解剖学と、顕微鏡を用いて組織の微細構造を観察する組織学に大別されます。解剖学Ⅰでは、人体構造を肉眼から顕微鏡レベルまで学びます。

前期授業計画		後期授業計画	
1	ガイダンス　全身の骨	1	基本平面と行動
2	ガイダンス　骨と内臓の位置関係	2	筋学―総論 1―
3	人体解剖学概論 2　細胞	3	筋学―総論 2―
4	人体解剖学概論 3　組織	4	筋学―各論：頭部―
5	骨格系―総論：骨の構造―	5	筋学―各論：頸部―
6	骨格系―総論：骨の連結―	6	筋学―各論：胸部―
7	骨格系―各論：頭蓋 1―	7	筋学―各論：腹部―
8	骨格系―各論：頭蓋 2―	8	筋学―各論：背部―
9	骨格系―各論：脊柱・胸郭―	9	筋学―各論：上肢 1―
10	骨格系―各論：上肢 1―	10	筋学―各論：上肢 2―
11	骨格系―各論：上肢 2―	11	筋学―各論：下肢 1―
12	骨格系―各論：下肢 1―	12	筋学―各論：下肢 2―
13	骨格系－各論：下肢2	13	筋学まとめ
14	骨格系　まとめ	14	筋学まとめ
15	期末試験	15	期末試験

講義の進め方（指導方法）

教科書に沿ってスライドを使用して講義を行う。
また、必要に応じて自作の配布プリントを使用する。
※上記の内容を中心に構成しますが、時間（時限）の配分は適宜調整しながら進行します。

成績評価（方法・基準）

定期試験の結果に加えて評価します。（90％）
また、小テスト・授業に対する積極性などについても評価します。（10％）

使用教材・備考

学校協会指定教科書：解剖学（医歯薬出版）
次回の講義までに、該当する教科書の範囲を必ず読んで来てください。
また、授業開始時に前回の講義範囲の小テストを行うことがあります。

年度	科目番号	科目名	分野	開講時期	学年	取得単位数
２０２４	1-06	解剖学Ⅱ	専門基礎	通年	1	2

講師名	実務経験・関連資格
杉山　渉	歯科医師 柔道整復師、専科教員

講義目的

脈管系、内臓系について理解を深め、柔道整復師の国家試験に合格するよう指導する。

講義内容

医学・医療を学ぶ上で「解剖学」は、人体の形態・構造を学ぶ重要な基礎医学である。
「解剖学Ⅱ」では、脈管系・内臓系を中心に講義を行う。

前期授業計画		後期授業計画	
1	脈管系 ―循環器（総論）	1	内臓系 ―食道、胃―
2	脈管系 ―心臓の構造―	2	内臓系 ―十二指腸、小腸・他臓器との位置関係―
3	脈管系 ―心臓の内部構造―	3	内臓系 ―大腸の構造と機能―
4	脈管系 ―動脈 1―	4	内臓系 ―肝臓の構造と機能―
5	脈管系 ―動脈 2―	5	内臓系 ―肝臓と胆嚢、胆路―
6	脈管系 ―動脈 3―	6	内臓系 ―呼吸器―
7	脈管系 ―静脈 1―	7	内臓系 ―呼吸器―
8	脈管系 ―静脈 1―	8	内臓系 ―呼吸器―
9	脈管系 ―静脈 2―	9	内臓系 ―呼吸器―
１０	脈管系 ―リンパ系 1―	１０	内臓系 ―呼吸器―
１１	脈管系 ―リンパ系 2―	１１	内臓系 ―泌尿器―
１２	脈管系 ―リンパ系 3―	１２	内臓系 ―泌尿器―
１３	内臓系 ―口、口腔―	１３	内臓系 ―泌尿器―
１４	内臓系 ―咽頭、喉頭―	１４	内臓系 ―泌尿器―
１５	期末試験	１５	期末試験

講義の進め方（指導方法）

まとめのプリント配布し、それに基づき授業を進める。

成績評価（方法・基準）

適宜知識の確認のための小テストを行うが、期末テストの評点と合わせて 100 点満点とする。
授業態度等により、加減する場合がある。

使用教材（教科書、教材等）

学校協会指定教科書：解剖学（医歯薬出版）

年度	科目番号	科目名	分野	開講時期	学年	取得単位数
2024	1-07	生理学Ⅰ	専門基礎	前期	1	2

講師名	実務経験・関連資格
西連寺　拓	医師

講義目的

生理学は人体の仕組みを説明する学問です。柔道整復師などの医療職は人体を相手にするため、生理学を勉強することは非常に大事です。本講義では生理学の基礎を身につけることを目的としています。
国家試験に必要なレベルを学びつつ、初めて触れる生理学の面白さを少しずつ探してみて下さい。

講義内容

生理学Ⅰでは、細胞の構造と機能、恒常性、体液などの生理学の基礎からはじまり、筋の生理、神経の生理、運動の生理、感覚の生理までを講義します。

授業計画(前期)

1	生理学の基礎:細胞の構造(細胞膜、核)	16	試験解説:細胞、筋、神経の復習
2	生理学の基礎:細胞内小器官、組織、恒常性、体液	17	運動の生理(1):運動と中枢神経
3	筋の生理(1):筋の種類、骨格筋	18	運動の生理(2):運動神経
4	筋の生理(2):収縮と弛緩	19	運動の生理(3):脊髄と反射
5	筋の生理(3):骨格筋と張力	20	運動の生理(4):反射、誘発筋電図、脳幹
6	筋の生理(4):筋電図、心筋、平滑筋	21	運動の生理(5):脳幹による運動調節 、高次運動機能
7	神経の生理(1):神経細胞、静止膜電位、活動電位、伝導	22	運動の生理(6):高次運動機能 、小脳
8	神経の生理(2):シナプス、伝達	23	感覚の生理 (1):感覚の種類、視覚
9	神経の生理(3):中枢神経、抹消神経、脳の構造	24	感覚の生理 (2):視覚
10	神経の生理(4):脳の機能	25	感覚の生理 (3):聴覚
11	神経の生理(5):睡眠と覚醒	26	感覚の生理 (4):味覚、嗅覚
12	神経の生理(6):学習、記憶	27	感覚の生理 (5):皮膚感覚、内臓感覚
13	神経の生理(7):自律神経	28	感覚の生理 (6):痛覚
14	神経の生理(8):自律神経	29	期末試験
15	中間試験	30	試験解説:運動の生理、感覚の生理の復習

講義の進め方(指導方法)

教科書の流れに沿って進めます。問題演習も行います。
講義は主にスライドを使用し、配布することがあります。
学生側からの質問は歓迎します。

成績評価(方法・基準)

定期試験により評価します。

使用教材(教科書、教材等)

教科書:『生理学　改訂第4版』(南江堂 2020)公益社団法人 全国柔道整復学校協会 監修, 彼末一之 編集
配布資料

年度	科目番号	科目名	分野	開講時期	学年	取得単位数
2024	1-08	生理学Ⅱ	専門基礎	後期	1	2

講師名	実務経験・関連資格
西連寺　拓	医師

講義目的

生理学は人体の仕組みを説明する学問です。柔道整復師などの医療職は人体を相手にするため、生理学を勉強することは非常に大事です。本講義では生理学の基礎を身につけることを目的としています。
国家試験に必要なレベルを学びつつ、生理学を独学する面白さを探してみてください。

講義内容

生理学Ⅱでは、内分泌、生殖、血液と免疫、骨の生理、循環、呼吸までを講義します。

授業計画(前期)

1	内分泌(1):内分泌器官とホルモンの種類	16	前半のまとめ
2	内分泌(2):ホルモンの作用機序	17	中間試験
3	内分泌(3):視床下部、下垂体	18	循環と呼吸の概説
4	内分泌(4):甲状腺、副甲状腺、膵臓	19	循環 (1):心臓の電気活動
5	内分泌(5):副腎、腎臓	20	循環 (2):心電図
6	内分泌(6)生殖(1):生殖腺、性分化 男性生殖器	21	循環 (3):血管、血圧
7	生殖(2):女性生殖器	22	循環 (4):血圧、リンパ
8	生殖(2):妊娠と分娩	23	循環 (5):循環調節
9	生殖(3):妊娠と分娩	24	循環 (6):循環調節
10	血液(1):血液の成分と組成	25	呼吸(1):換気
11	血液(2):止血、血液型	26	呼吸(2):ガス交換、運搬
12	免疫(1):免疫系機関、免疫細胞	27	呼吸(3):呼吸の調節
13	免疫(2):免疫の仕組み	28	呼吸(4):呼吸の調節
14	骨の生理(1):骨の種類、構造、成長	29	期末試験
15	骨の生理(2):骨形成と吸収、カルシウム代謝	30	後半のまとめ

講義の進め方(指導方法)

教科書の流れに沿って進めます。問題演習も行います。
講義は主にスライドを使用し、配布することがあります。
学生側からの質問は歓迎します。

成績評価(方法・基準)

定期試験により評価します。

使用教材(教科書、教材等)

教科書:『生理学　改訂第4版』(南江堂 2020)公益社団法人 全国柔道整復学校協会 監修, 彼末一之 編集
配布資料

年度	科目番号	科目名	分野	開講時期	学年	取得単位数
２０２４	1-09/1-13	運動学・基礎柔整Ⅲ	専門基礎	通年	1	2

講師名	実務経験・関連資格
朝倉智之	大学教員・理学療法士・群馬県スポーツ協会認定アスレティックトレーナー

講義目的

異常な状態が分かるためには、正常な状態を知らなければならない。人間は重力に逆らって運動する。力学、解剖学、生理学等と身体運動との関係を理解し、人間の身体運動を成立させている機構の基礎を学ぶ。

講義内容

下記、授業計画を参照
毎回復習の小テストを実施する。

前期授業計画		後期授業計画	
1	運動学とは 運動の表し方	1	足部の構造と運動
2	力学の基礎（1）	2	足部の筋の作用 脊柱の構造と運動
3	力学の基礎（2）	3	脊柱の構造と頸部の運動
4	力学の基礎（3） 筋収縮の様態	4	脊柱の構造と胸部の運動
5	上肢帯の構造と運動	5	呼吸および腰部の運動
6	肩関節の構造と運動	6	顔面・頭部の運動 姿勢
7	肘関節の運動と筋の作用	7	歩行
8	中間試験	8	中間試験
9	手関節および手の構造	9	正常歩行と異常歩行
１０	手の運動と筋の作用	１０	反射
１１	下肢帯の構造と股関節	１１	姿勢反射
１２	股関節の運動と筋の作用	１２	随意運動
１３	膝関節の構造と運動	１３	運動発達
１４	膝関節の筋の作用、足関節と足部の構造	１４	運動発達・運動学習
１５	期末試験	１５	期末試験

講義の進め方（指導方法）

教科書を中心に講義する。質問は授業中に随時受け付ける。必ず予習をして臨むこと（教科書を読み込んでおく等）。
一部実技･体験の講義を含める。主体的に授業に参加すること。

成績評価（方法・基準）

中間試験の結果（35%）、期末試験の結果（35%）、小テストを含む普段の授業への参加姿勢（30%）をもとに判定する。

使用教材（教科書、教材等）

斉藤宏、鴨下博：運動学　改訂第３版，医歯薬出版。

年度	科目番号	科目名	分野	開講時期	学年	取得単位数
2024	1-10	柔道Ⅰ	専門基礎	前期	1	1

講師名	実務経験・関連資格
長坂　愛	柔道整復師養成専門学校で柔道実技の指導に携わる。その経験を活かし安全面に十分配慮しながら教授する。柔道整復師、専科教員

講義目的

柔道の特性をふまえ、柔道整復師としての基本的な柔道の心・技・体について理解を深め、医療人としての心の教育をする。
特に礼法・受身の修得に重点を置き、柔道の基本動作を学び昇級を目指す。

講義内容

1. 柔道の歴史、特性、礼法
2. 柔道の受身(後受身、横受身、前受身、前回受身)
3. 柔道の投技(姿勢、組み方、進退、体捌き、崩し、掛け)・固技の基本動作
4. 柔道の対人技術(足技、腰技、手技、 袈裟固め、横四方固め、絞め技、関節技)
5. 試合の在り方と運営
6. 審判法について
7. 活法

前期授業計画		後期授業計画	
1	授業の概要と進め方、柔道衣の着方	1	
2	柔道の基礎知識、礼法	2	
3	基本動作(後受身、姿勢と組み方)	3	
4	後受身、横受身、前受身	4	
5	前回受身	5	
6	前回受身	6	
7	基本動作(体捌き、崩し)	7	
8	足技(送足払いなど)	8	
9	腰技(大腰など)	9	
10	手技(一本背負投など)	10	
11	固技(抑技、絞技、関節技、活法)	11	
12	試合の運営と審判法	12	
13	投技の復習	13	
14	実技試験	14	
15	まとめ	15	

講義の進め方(指導方法)

1. 柔道基本動作の習熟の為の反復練習を行う。
2. 基本的には二人一組での投技の対人実技が中心で行う。
3. 個人差を考慮し安全に実施する。

成績評価(方法・基準)

実技試験で 100 点満点とし、60 点以上をもって合格とする。

使用教材(教科書、教材等)

必要に応じて適宜プリントを配布する。

年度	科目番号	科目名	分野	開講時期	学年	取得単位数
2024	1-11	基礎柔道整復学Ⅰ	専門	通年	1	2

講師名	実務経験・関連資格
永井　よりか	2006 年 4 月より接骨院に勤務し、2011 年 4 月より本校附属接骨院勤務を経て、2014 年 4 月より本校教員となる。柔道整復師免許、柔道整復師専科教員

講義目的

柔道整復学の基礎知識、骨組織の損傷を理解する

講義内容

教科書(南江堂　全国柔道整復学校協会　柔道整復学理論編)を使用する

前期授業計画		後期授業計画	
1	オリエンテーション	1	骨折の固有症状1
2	柔道整復師の沿革 業務範囲と倫理綱領	2	骨折の固有症状2
3	人体に加わる力 損傷時に加わる力	3	骨折の固有症状3
4	骨の損傷 骨の形態と機能骨の構造	4	骨折の全身症状
5	骨損傷の概説 骨損傷に加わる力	5	骨折の合併症①
6	骨折の分類 骨の性状による分類、骨損傷の程度による分類	6	骨折の合併症②
7	骨折の分類 骨折線の方向による分類	7	骨折の合併症③
8	骨折の分類 骨折部と創部との交通の有無による分類	8	小児骨折、高齢者骨折①
9	骨折の分類 骨折の数、外力の働いた部位による分類	9	小児骨折、高齢者骨折②
10	骨折の分類 外力の働き方による分類	10	骨折の癒合日数、骨折の治癒経過
11	骨折の分類 骨折の部位による分類、受傷後の経過	11	骨折の予後、骨折の治癒に影響を与える因子
12	骨折の症状 骨折の局所症状一般外傷症状1	12	治療法 整復法
13	骨折の症状 骨折の局所症状一般外傷症状2	13	骨折の整復法
14	定期試験	14	定期試験
15	解答と解説	15	解答と解説

講義の進め方(指導方法)

教科書を中心に講義行い、要点についてはプリント等も活用して理解を深める
小テスト(確認テスト)を行う
日程は前後することがある

成績評価(方法・基準)

定期試験や小テスト, 授業態度で評価する

使用教材(教科書、教材等)

柔道整復学理論編
その他

年度	科目番号	科目名	分野	開講時期	学年	取得単位数
2024	1-12	基礎柔道整復学Ⅱ	専門	通年	1	2

講師名	実務経験・関連資格
大串　紫紀穂	柔道整復師、専科教員

講義目的

関節の構造、関節損傷について理解する。

講義内容

関節及び関節構成組織について理解する。
関節損傷の概論、脱臼の整復法について理解する。

前期授業計画		後期授業計画	
1	オリエンテーション	1	オリエンテーション
2	骨の名前① 上肢	2	前期復習
3	関節の構造① 上肢	3	脱臼①
4	骨の名前② 上肢	4	脱臼②
5	関節の構造② 上肢	5	脱臼③
6	関節の損傷③ 上肢	6	脱臼④
7	関節の損傷③ 上肢	7	脱臼⑤
8	骨の名前④ 頭部	8	脱臼の整復法①
9	関節の構造④ 頭部	9	脱臼の整復法②
10	骨の名前⑤ 下肢	10	脱臼の整復法③
11	関節の構造⑥ 下肢	11	脱臼の整復法④
12	関節の損傷⑦ 下肢	12	脱臼の整復法⑤
13	関節の損傷⑦ 下肢	13	後期まとめ
14	期末試験	14	期末試験
15	解答と解説	15	解答と解説

講義の進め方(指導方法)

教科書の内容に沿って、必要に応じてプリント及びパワーポイント等を用いて解説指導する。

成績評価(方法・基準)

定期試験による評価、授業態度

使用教材(教科書、教材等)

教科書(柔道整復学・理論編)
配布資料

年度	科目番号	科目名	分野	開講時期	学年	取得単位数
2024	1-14	基礎柔道整復学Ⅳ	専門	通年	1	2

講師名	実務経験・関連資格
永井　よりか	2006 年 4 月より接骨院に勤務し、2011 年 4 月より本校附属接骨院勤務を経て、2014 年 4 月より本校教員となる。柔道整復師免許、柔道整復師専科教員

講義目的

柔道整復術において重要となる損傷の見分け方（診察）に始まり、治療における固定法・後療法，社会生活へ復帰した際の指導管理までを行う上で必要な知識を習得する。

講義内容

柔道整復学の基礎知識をもとに、実践を踏まえながら診察・固定法・後療法・指導管理を理解する。

前期授業計画		後期授業計画	
1	オリエンテーション コミュニケーションゲーム	1	前期の振り返り
2	診察について ①	2	後療法について ④
3	診察について ②	3	後療法について ⑤
4	診察の実践とまとめ	4	後療法について ⑥
5	固定法について ①	5	指導管理について ①
6	固定法について ②	6	指導管理について ②
7	固定法について ③	7	指導管理について ③
8	固定法について ④	8	外傷予防について ①
9	固定法の実践とまとめ	9	外傷予防について ②
10	後療法について ①	10	外傷予防について ③
11	後療法について ②	11	外傷予防について ④
12	後療法について ③	12	外傷予防について ⑤
13	前期まとめ	13	後期まとめ
14	定期試験	14	定期試験
15	解説と回答	15	解答と解説

講義の進め方（指導方法）

教科書を中心に補足資料も用いながら講義を行う。
小テストを行う。
日程は前後することがある

成績評価（方法・基準）

授業態度、小テスト、定期試験で評価する。

使用教材（教科書、教材等）

教科書(南江堂　全国柔道整復学校協会　柔道整復学理論編)を使用する
その他

年度	科目番号	科目名	分野	開講時期	学年	取得単位数
2024	1-15	基礎柔道整復学Ⅴ	専門	通年	1	2

講師名	実務経験・関連資格
岡田　郁子	柔道整復師、専科教員

講義目的

・柔道整復の基礎知識を習得する。
・六大関節の構造と機能を習得する。

講義内容

・軟部組織の構造と損傷、治癒過程について理解する。
・六大関節について理解を深める。

前期授業計画		後期授業計画	
1	オリエンテーション	1	神経の構造と機能
2	筋の構造と機能	2	神経損傷①
3	筋損傷①	3	神経損傷②
4	筋損傷②	4	神経損傷③
5	筋損傷③	5	軟部組織損傷の初期処置
6	筋損傷④	6	肘関節①
7	中間試験	7	肘関節②
8	腱の構造と機能	8	中間試験
9	腱の損傷①	9	手関節①
10	腱の損傷②	10	股関節①
11	腱の損傷③	11	股関節②
12	肩関節①	12	膝関節①
13	肩関節②	13	膝関節②
14	肩関節③	14	足関節①
15	前期期末試験	15	後期期末試験

講義の進め方(指導方法)

教科書の内容に沿って、必要に応じてプリント及びパワーポイント等を用いて解説指導する。
小テストを行う。

成績評価(方法・基準)

定期試験による評価、授業態度

使用教材(教科書、教材等)

柔道整復学・解剖学教科書、配布資料等

年度	科目番号	科目名	分野	開講時期	学年	取得単位数
2024	1-16	柔道整復実技Ⅰ	専門	通年	1	2

講師名	実務経験・関連資格
星　勇人	柔道整復師免許、柔道整復師専科教員 2013 年より接骨院勤務後、2016 年より整形外科病院勤務を経て、2023 年 4 月本校教員となる。

講義目的

・テーピングの基礎知識と固定法について学ぶ。
・形態学的特徴点が分かり触れられる。

講義内容

・テーピングの種類・名前・巻き方を学ぶ。
・形態学的特徴点について学ぶ。

前期授業計画		後期授業計画	
1	オリエンテーション	1	前期の復習
2	テーピングの基礎	2	股関節・膝の形態学的特徴点をとらえる
3	指・手首・肘の形態学的特徴点をとらえる	3	股関節・膝の関節可動域測定法
4	指・手首・肘の関節可動域測定法	4	下肢テーピング固定①
5	上肢テーピング固定①	5	下肢テーピング固定②
6	上肢テーピング固定②	6	足関節の形態学的特徴点をとらえる
7	肩の形態学的特徴点をとらえる	7	足関節の関節可動域測定法
8	上肢関節可動域測定法①	8	下肢関節可動域測定法①
9	上肢関節可動域測定法②	9	下肢関節可動域測定法②
10	上肢関節可動域測定法③	10	テーピング固定①
11	テーピング固定①	11	テーピング固定②
12	テーピング固定②	12	テーピング固定③
13	練習	13	実技試験
14	実技試験	14	実技試験
15	実技試験	15	実技試験

講義の進め方(指導方法)

・2 人もしくは 3 人組で授業を進めます。
・形態学的特徴点に触れる、可動域を測る、固定する流れで進めます。

成績評価(方法・基準)

試験・授業態度で評価する。

使用教材(教科書、教材等)

配布資料

年度	科目番号	科目名	分野	開講時期	学年	取得単位数
２０２４	1-17	柔道整復実技Ⅱ	専門	通年	1	2

講師名	実務経験・関連資格
疋田　拓也	柔道整復師、専科教員、認定実技審査員

講義目的

本授業は包帯法の基本技術の修得を目標とし、柔道整復師が施行する固定法を学習します。包帯法を中心に包帯や固定材料の種類、使用の目的、包帯の巻き方を学習し、体の各部位を固定する技術を修得します。

講義内容

包帯の名前・種類・巻き方の学習
基本包帯法と部位別包帯法の学習
テーピング固定法の学習

前期授業計画		後期授業計画	
1	オリエンテーション（包帯固定学概要とトレーナーズバックの確認）	1	部位別包帯法⑥（上肢の復習）
2	固定の意義、固定材料の種類、包帯の巻き方と巻き戻し方	2	部位別包帯法⑦（股関節部）
3	基本包帯法①（手部・前腕部）	3	部位別包帯法⑧（膝関節部）
4	基本包帯法②（肘関節部・肩関節部）	4	部位別包帯法⑨（足関節部）
5	部位別包帯法①（手関節部・母指部）	5	部位別包帯法⑩（足趾部）
6	部位別包帯法②（手指部）	6	部位別包帯法（下肢）
7	部位別包帯法（上肢）	7	部位別包帯法（下肢）
8	部位別包帯法（上肢）	8	中間実技試験
9	中間実技試験	9	中間実技試験
１０	中間実技試験	１０	冠名包帯①（デゾー包帯法）
１１	部位別包帯法③（頭部・顔面部）	１１	冠名包帯②（デゾー包帯法）
１２	部位別包帯法④（体幹部）	１２	冠名包帯③（ウェルポー包帯法）
１３	部位別包帯法⑤（腰部）	１３	冠名包帯④（ジュール包帯法）
１４	期末実技試験	１４	期末実技試験
１５	期末実技試験	１５	期末実技試験

講義の進め方（指導方法）

生徒同士 2 人組もしくは 3 人組で授業を進行します。
臨床を想定した接遇・対応・態度を考慮し、より実践に近い立ち振る舞いを意識した実技を行います。

成績評価（方法・基準）

前・後期それぞれ 2 回計 4 回の実技試験の成績（90%）、身だしなみと授業態度（10%）とで総合的に評価します。

使用教材（教科書、教材等）

包帯固定学
柔道整復学（理論編・実技編）
配布資料

年度	科目番号	科目名	分野	開講時期	学年	取得単位数

2024	1-18	臨床実習Ⅰ	専門	後期	1	2

講師名	実務経験・関連資格
星　勇人	柔道整復師免許、柔道整復師専科教員

講義目的

・臨床実習の意義を共有する。
・臨床の現場で必要となる知識や技術を身につける。
・学校の講義だけでは習得しえない、現場での業務や患者対応を学ぶ。

講義内容

・臨床実習の概要や目的・到達目標を理解し、個々に目標達成に向けた取り組みを行う。
・臨床の現場で必要となる付帯業務（清掃，患者誘導，物理療法機器取扱い）について。
・臨床実習から得た学びをまとめ、全体で共有する。

授業計画（後期）

1	オリエンテーション① 臨床実習の目的・目標	16	接骨院見学・実習⑤ 外部の提携施術所
2	オリエンテーション② 臨床実習で必要な知識	17	接骨院見学・実習⑥ 外部の提携施術所
3	オリエンテーション③ 臨床実習で必要な技術	18	接骨院見学・実習⑦ 外部の提携施術所
4	ガイダンス① 事前評価（あいさつ、言葉遣い）	19	接骨院見学・実習⑧ 外部の提携施術所
5	ガイダンス② 事前評価（身だしなみ、付帯業務）	20	多職種連携について① 整形外科分野
6	接骨院演習① 附属接骨院（受付業務、患者誘導）	21	多職種連携について② 介護分野
7	接骨院演習② 附属接骨院（環境整備、物理療法）	22	フィールドワーク①
8	接骨院見学 外部の提携施術所	23	フィールドワーク②
9	柔道整復術について 講習・実践	24	フィールドワーク③
10	スポーツ現場における柔道整復術について 講習・実践	25	フィールドワーク④
11	接骨院見学・実習① 外部の提携施術所	26	フィールドワーク⑤
12	接骨院見学・実習② 外部の提携施術所	27	フィールドワーク発表会
13	接骨院見学・実習③ 外部の提携施術所	28	超音波画像診断装置の理解
14	接骨院見学・実習④ 外部の提携施術所	29	超音波画像の読影の仕方
15	臨床実習のまとめ 中間評価	30	臨床実習のまとめ 最終評価

講義の進め方（指導方法）

・附属接骨院において事前学習・評価を行い、臨床実習に必要な知識と技術を身につける。
・外部施術所において接骨院業務や実際の患者対応を学ぶ。

成績評価（方法・基準）

事前評価，中間評価，最終評価を中心に、出欠席や実習態度も踏まえて評価する。

使用教材（教科書、教材等）

臨床実習ガイドライン
教科書（柔道整復学理論編・実技編）
プリント，スライド

年度	科目番号	科目名	分野	開講時期	学年	取得単位数
2024	2-01	解剖学Ⅲ	専門基礎	通年	2	2

講師名	実務経験・関連資格
渡邊　利明	大学教授

講義目的

男性および女性泌尿生殖器系、内分泌器の構造を理解する。脳、神経系および感覚器の構造を理解する。

講義内容

解剖学は、人体の形態・構造を研究する学問です。医学・医療を学ぶ上での重要な基礎医学の一つです。
解剖学Ⅲでは、腎臓の構造と機能、男性および女性生殖器の構造と機能、受精の仕組、内分泌系の構造と機能、神経系および脳の構造と機能、感覚器の構造について講義をします。

前期授業計画		後期授業計画	
1	生殖器の働き・男性生殖器	1	心臓の運動と自律神経系、反射路
2	女性生殖器①	2	上行性神経伝導路Ⅰ、皮膚感覚
3	女性生殖器②	3	上行性神経伝導路Ⅱ、深部感覚
4	女性生殖器③	4	錐体路および錐体外路
5	内分泌器の働き・内分泌器①	5	小脳の構造と機能
6	内分泌器②	6	脳神経核と脳神経の起始部分布と役割
7	内分泌器③	7	頚および腕神経叢、その支配筋と領域
8	内分泌器④	8	腰神経叢、その支配筋と領域
9	神経系の概要および神経組織	9	仙骨及び陰部の神経叢、その支配筋と領域
10	神経細胞の構造、機能および種類	10	眼球の構造
11	体性運動ニューロン	11	眼球の機能と視覚伝導路
12	大脳の構造および機能局在	12	味覚とその伝導路
13	脳幹および大脳辺縁系	13	聴覚器および平衡器の構造
14	脊髄の構造と機能，自律神経系	14	聴覚器および平衡器の伝導路
15	期末試験	15	期末試験

講義の進め方（指導方法）

配布プリントを使用します。
※上記の内容の構成で講義を実施しますが、適宜内容・配分は調整しながら進行します。

成績評価（方法・基準）

定期試験の結果にて評価します。

使用教材（教科書、教材等）

次回の講義までに、該当する教科書の範囲を必ず読んで来てください。

年度	科目番号	科目名	分野	開講時期	学年	取得単位数

2024	2-02	生理学Ⅲ	専門基礎	通年	2	2

講師名	実務経験・関連資格
西連寺　拓	医師

講義目的

生理学は人体の仕組みを説明する学問です。柔道整復師などの医療職は人体を相手にするため、生理学を勉強することは非常に大事です。本講義では生理学の基礎を身につけることを目的としています。
国家試験に必要なレベルを学びつつ、生理学を独学する面白さを少しずつ探してみて下さい。

講義内容

生理学Ⅲでは、細胞の構造と機能、恒常性、体液などの生理学の基礎からはじまり、筋の生理、神経の生理、運動の生理、感覚の生理までを講義します。

前期授業計画		後期授業計画	
1	オリエンテーション:細胞の構造、機能の復習	1	体液について
2	栄養(1):代謝、呼吸	2	腎臓(1)尿とは
3	栄養(2):糖、タンパク質	3	腎臓(2):電解質、浸透圧
4	栄養(3):脂質	4	腎臓(3):泌尿器、尿細管
5	消化管(1):全体像	5	腎臓(4):尿細管、尿の成分、体液とホルモン
6	消化管(1):上部消化管	6	腎臓(5):腎臓と他の臓器の関係
7	消化管(2):胃、十二指腸、膵臓	7	腎臓(6):復習、実習
8	消化管(3):肝胆膵	8	呼吸 (1):呼吸器系の解剖
9	消化管(4):肝胆膵、小腸	9	呼吸 (2):肺のミクロ解剖、外呼吸と内呼吸
10	消化管(5):消化管と神経、嚥下	10	呼吸 (3):スパイロメーター
11	消化管(6):消化管ホルモン、大腸	11	呼吸(4):酸素解離曲線
12	代謝(1):ビタミン、微量元素	12	呼吸 (5他の臓器との関連、まとめ
13	代謝(2):代謝に関わるホルモン	13	期末試験
14	期末試験	14	試験解説
15	試験解説	15	全体のまとめ、今後の生理学の予習

講義の進め方(指導方法)

教科書の流れに沿って進めます。問題演習も行います。
講義は主にスライドを使用し、配布することがあります。学生側からの質問は歓迎します。

成績評価(方法・基準)

定期試験により評価します。

使用教材(教科書、教材等)

教科書:『生理学　改訂第4版』(南江堂 2020)公益社団法人 全国柔道整復学校協会 監修, 彼末一之 編集
配布資料

中央スポーツ医療専門学校

年度	科目番号	科目名	分野	開講時期	学年	取得単位数

2024	2-03	病理学概論	専門基礎	通年	2	2

講師名	実務経験・関連資格
渡邊　利明	大学教授

講義目的

病理学の理解を深める
柔道整復師として必要な病理学の知識を得る

講義内容

病理学に関する総論・各論

前期授業計画		後期授業計画	
1	細胞障害、萎縮、変性、代謝障害	1	癌とは何か
2	壊死、アポトーシス	2	食道癌、胃癌、大腸癌
3	血液の循環障害	3	肺癌、肝臓癌、膵臓癌
4	浮腫、脱水症状	4	子宮頸癌、乳癌、前立腺癌
5	高血圧	5	皮膚癌、脳腫瘍
6	心疾患、腎疾患	6	先天性異常―1
7	肥大、再生、化生	7	先天性異常―2
8	創傷治癒	8	先天性異常―3
9	炎症	9	栄養
10	炎症性疾患	10	細菌
11	免疫	11	ウイルス
12	アレルギー	12	真菌、原虫
13	移植	13	感染症
14	自己免疫疾患	14	神経の再生
15	まとめ、テスト	15	まとめ、テスト

講義の進め方（指導方法）

教科書に沿ってすすめます。毎回配布物を配りパワーポイントを使って説明します

成績評価（方法・基準）

期末試験

使用教材（教科書、教材等）

病理学概論　改訂第3版　医歯薬出版株式会社

年度	科目番号	科目名	分野	開講時期	学年	取得単位数
２０２４	2-04/2-05	一般臨床医学Ⅰ/外科学概論	専門基礎	後期/通年	2	1/2

講師名	実務経験・関連資格
天野　出月	医師

講義目的

内科・外科学の立場から、様々な疾患の病態・診断・治療を学習する基礎となる基本的な知識を身につける。
臨床医学入門と内科診断学、外科学総論が中心となる。

講義内容

内科疾患の診断・治療を学ぶための基礎的な知識を講義する。外科学の基礎的知識を学ぶ
特に疾患の病態生理、その徴候をとらえる技術、臨床医学全体に必要な科学的な考え方を中心に具体的に述べる。

	前期授業計画		後期授業計画
1	臨床医学入門、診察の意義、診察の進め方・問診	1	ショック・輸血 輸液
2	視診（TL）	2	消毒滅菌 手術・麻酔
3	視診（２）	3	疼痛管理・移植 出血・止血
4	打診・聴診・触診	4	心肺蘇生法 代表的な臨床症状（１）
5	生命徴候	5	代表的な臨床症状（２） 中間試験
6	知覚検査・反射検査（１）	6	中間試験解説 呼吸器（１）
7	知覚検査・反射検査（２）／臨床検査	7	呼吸器（２） 呼吸器（３）
8	中間試験	8	呼吸器（４） 循環器（１）
9	中間試験解説	9	循環器（２） 循環器（３）
１０	外科学概論・損傷	１０	循環器（４） 消化器（５）
１１	創傷・熱傷	１１	消化器（１） 消化器（２）
１２	感染症・腫瘍（１）	１２	消化器（３） 消化器（４）
１３	腫瘍（２）	１３	消化器（５） 消化器（６）
１４	期末試験	１４	代謝・栄養（１） 代謝・栄養（２）
１５	期末試験解説	１５	期末試験 期末試験解説

講義の進め方（指導方法）

教科書の内容を中心として講義を進める。できるだけ具体的な理解ができるように分かりやすく解説する。
知識が相互によく関連するように、重要な内容は繰り返し確認する。また、重要度を明確にして解説をする。

成績評価（方法・基準）

筆記試験（国家試験問題類似の内容）

使用教材（教科書、教材等）

教科書：一般臨床医学・外科学概論（医歯薬出版）
教材：適宜プリントを配布する。

年度	科目番号	科目名	分野	開講時期	学年	取得単位数
2024	2-06	整形外科学	専門基礎	通年	2	2

講師名	実務経験・関連資格
渡邊　利明	大学教授

講義目的

運動器疾患、整形外科学の理解を深める
柔道整復師として必要な整形外科の知識を得る

講義内容

運動器・整形外科に関する総論・各論

前期授業計画		後期授業計画	
1	整形外科の歴史と運動器の基礎知識	1	神経・筋痴患、脊髄損傷
2	整形外科診察法	2	体幹の疾患・頭部
3	整形外科検査法	3	鯛牟の疾患・胸部
4	整形外科的治療法	4	体幹の疾患・腰部
5	骨・関節損傷総論（骨折）	5	上肢の炭妣　肩①
6	骨・関節損傷総論（脱臼）	6	上肢の疾患肩②
7	スポーツ整形外科・リハビリテーション	7	上肢の炭逖　上腕・肘
8	感染症	8	上肢の炎姓　前腕・手
9	骨・軟部腫蕩	9	上肢の疾患　手・手指
10	リウマチ性疾患	10	骨盤・下肢の奕巒・股関節
11	骨系統炭胝	11	下肢の痴皂　大腿
12	骨端症	12	下肢の疾患膝関節
13	循環障害	13	下肢の疾患　下腿
14	絞扼性神経障害	14	下肢の疾患　足関節・足
15	期末試験	15	期末試験

講義の進め方（指導方法）

教科書に沿ってすすめます。毎回配布物を配りパワーポイントを使って説明します。

成績評価（方法・基準）

期末試験

使用教材（教科書、教材等）

整形外科学　全国柔道整復学校協会監修　南江堂

年度	科目番号	科目名	分野	開講時期	学年	取得単位数
2024	2-07	衛生学	専門基礎	前期	2	1

講師名	実務経験・関連資格
大原　正	歯科医師

講義目的

人の健康に関係する専門家として衛生学の基本的哲学と知識を身につけ、社会に溶け込み、人々の生活に密着する中で、健康問題の解決をはかっていかなければならない。実践の学であることを知ってもらい、地域医療のオピニオンリーダーと育って戴きたい。

講義内容

教科書の各章に応じますが、特記すべきは、マスメディアを通じ、衛生学関連のニュースに敏感になって戴きたいことです。単に記載の学問でないことを実感して戴きたい。

前期授業計画		後期授業計画	
1	衛生学・公衆衛生学の歴史と公衆衛生活動　1 章	1	
2	健康の概念　2 章	2	
3	健康の概念　人口統計、健康水準、健康指標	3	
4	疾病予防と健康管理　3 章	4	
5	感染症の予防1　4 章	5	
6	感染症の予防2	6	
7	感染症の予防3	7	
8	消毒1　5 章	8	
9	消毒2	9	
10	消毒3	10	
11	環境保健1　6 章	11	
12	環境保健2	12	
13	生活環境・食品衛生活動　7 章	13	
14	まとめ	14	
15	期末試験	15	

講義の進め方（指導方法）

教科書を主体として、補足必要な場合（問題、ニュース等）は、資料を配布
国家試験過去問題を解説

成績評価（方法・基準）

本試験、再・追試験の点数が主体
授業態度、普段点も考慮されます。

使用教材（教科書、教材等）

教科書：衛生学・公衆衛生学（南江堂）

年度	科目番号	科目名	分野	開講時期	学年	取得単位数
2024	2-08	公衆衛生学	専門基礎	後期	2	1

講師名	実務経験・関連資格
大原　正	歯科医師

講義目的

ライフサイクルの中で、公衆衛生活動は欠く事のできない学問であることを認知して戴き、常に社会の個人および集団を対象とする、実践の学であることを理解して戴く。

講義内容

衛生行政活動など、具体例を挙げ、より身近に感じてもらうために、習熟度さ高める内容。

前期授業計画		後期授業計画	
1		1	母子保健1　8 章
2		2	母子保健2
3		3	学校保健1　9 章
4		4	学校保健2
5		5	産業保健1　10 章
6		6	産業保健2
7		7	成人高齢者保健1　11 章
8		8	成人高齢者保健2
9		9	精神保健　12 章
10		10	地域保健と国際保健1　13 章
11		11	地域保健と国際保健2
12		12	衛生行政と保健医療の制度　14 章
13		13	医療の倫理と安全の確保、試験説明　15 章
14		14	期末試験
15		15	試験解説・疫学

講義の進め方(指導方法)

教科書を主体
資料による補足説明
国家試験過去問題解説

成績評価(方法・基準)

本試験、再・追試験の点数が主体
授業態度、普段点も考慮されます。

使用教材(教科書、教材等)

教科書:衛生学・公衆衛生学(南江堂)

年度	科目番号	科目名	分野	開講時期	学年	取得単位数
2024	2-09	柔道Ⅱ	専門基礎	前期	2	1

講師名	実務経験・関連資格
長坂　愛	柔道整復師養成専門学校で柔道実技の指導に携わる。その経験を活かし安全面に十分配慮しながら教授する。柔道整復師、柔道整復専科教員

講義目的

1. 柔道の特性をふまえ、柔道整復師としての基本的な柔道の心・技・体について理解を深め、医療人としての心の教育をする。
2. 柔道の技術追及ではなく、柔道そのものの良さを味わせ、生活においても実践させるような態度を養うことをめざす。
3. 体力の向上、柔道技能、練習の科学的な基礎知識を修得する。

講義内容

柔道の特性に基づき、技能、社会的態度、健康、安全に関する態度の三つの観点を学習する。
1.技能の内容は基本動作、対人的技能を、柔道のルールの基に最大限に発揮させる 。
2.態度については自主的、計画的な練習態度と勝敗に対しての公正な態度だけでなく、思考的な態度と生活改善にまで結びつくような授業展開を目指す。
3.健康、安全については服装や道場の清潔や安全を保つ態度、規制で禁じた技は絶対に使用しないなどの態度を強調していく。

前期授業計画		後期授業計画	
1	1 年時の復習　授業概要説明	1	
2	投の形　手技(浮落)　得意技	2	
3	投の形　手技(背負投)　約束稽古	3	
4	投の形　手技(肩車)　固技	4	
5	投の形　手技　得意技	5	
6	投の形　腰技(浮腰)　約束稽古	6	
7	投の形　腰技(払腰)　固技	7	
8	投の形　腰技(釣込腰)　得意技	8	
9	投の形　腰技　約束稽古	9	
10	投の形　足技(送足払)　寝技	10	
11	投の形　足技(支釣込足)　約束稽古	11	
12	投の形　足技(内股)　試合のルール	12	
13	投の形　足技(足技)　約束稽古	13	
14	実技試験	14	
15	まとめ	15	

講義の進め方(指導方法)

・1 年生で修得した基本技の程度を高め習熟するとともに、投技の相手の変化に対応する攻防の技能を身につけられるよう指導する。
・固め技では抑え方、のがれ方を体得し固め技攻防の実際の力をつけていく。
・投の形を修得できるよう、繰り返し実施する。

成績評価(方法・基準)

実技試験で 100 点満点とし、60 点以上をもって合格とする。

使用教材(教科書、教材等)

必要に応じて適宜プリントを配布する。

年度	科目番号	科目名	分野	開講時期	学年	取得単位数
2024	2-10	臨床柔道整復学Ⅰ	専門	通年	2	2

講師名	実務経験・関連資格
星　勇人	柔道整復師免許、柔道整復専科教員

講義目的

・柔道整復師の業務範囲内のもの範囲外のものを正しく理解する。
・医師が行う医療行為と柔道整復師が行う施術行為を正しく理解する。
・柔道整復師が行う応急処置を正しく理解する。
・疾患と捻挫及び軟部組織損傷を正しく理解する。

講義内容

・教科書内容を理解する。
・顔面、頭蓋骨、頭部外傷の応急処置法を学び、同時に医療機関で行われている治療方法を理解する。
・顎関節脱臼の治療法（整復・固定・後療法 ）を正しく教授する。
・肋骨骨折の治療法（整復・固定・後療法 ）を正しく教授する。
・脊柱損傷を解剖学的見地より教授する。
・疾患と捻挫の違いを正しく学び、医師と柔道整復師の医接連携の重要性を教授する。

前期授業計画		後期授業計画	
1	シラバスの説明，顔面，頭蓋骨骨折	1	頚部疾患①〔機能解剖を含む〕
2	頭部外傷，顎関節脱臼，顎関節症の分類	2	頚部疾患②〔臨床徒手検査〕
3	胸部外傷，肋骨骨折	3	頚部疾患③〔X線、MRI、CT画像診断〕
4	頚椎の骨折	4	頚部疾患④〔臨床例〕
5	頸椎の脱臼	5	腕神経叢損傷①〔解剖を含む〕
6	胸椎の骨折	6	腕神経叢損傷②
7	腰椎の骨折	7	末梢神経障害①〔解剖を含む〕
8	中間試験	8	末梢神経障害②〔各種検査法〕
9	胸椎，腰椎の脱臼	9	腰部疾患①〔機能解剖を含む〕
10	軟部組織損傷	10	腰部疾患②〔臨床徒手検査〕
11	頸部の軟部組織損傷	11	腰部疾患③〔X線、MRI、CT画像診断〕
12	胸部，背部の軟部損傷	12	頚部、腰部の臨床例
13	腰部の軟部組織損傷	13	頚部、腰部の臨床例
14	前期のまとめ	14	後期のまとめ
15	試験	15	試験

講義の進め方（指導方法）

・解剖学、運動学をふまえつつ、教科書の内容を解説。
・現代医療水準に沿う医療機関による治療、柔道整復師が業務範囲で出来ることを理解する為に、応急処置法、治療法等を映像を交え指導する。
・顎関節脱臼、胸骨々折、臨床徒手検査法に関する実技を行い個々が理解出来るよう指導する。
・頚部疾患、腰部疾患の鑑別方法を理解出来るように指導する。

成績評価（方法・基準）

定期試験試験（中間・期末試験）、小テスト等

使用教材（教科書、教材等）

教科書：柔道整復学(理論編)、参考書：解剖学書、運動学書、整形外科学書

年度	科目番号	科目名	分野	開講時期	学年	取得単位数
2024	2-11	臨床柔道整復学Ⅱ	専門	通年	2	2

講師名	実務経験・関連資格
大串　紫紀穂	柔道整復師免許、柔道整復専科教員

講義目的

上肢の損傷(鎖骨、肩甲骨、肩関節、上腕、前腕部の骨折、脱臼、軟部組織損傷)について理解する

講義内容

教科書(柔道整復学・理論編/実技編)を使用し進める

前期授業計画		後期授業計画	
1	オリエンテーション 鎖骨骨折1	1	前期の復習　上腕骨骨折 1
2	鎖骨骨折2	2	上腕骨骨折 2
3	鎖骨脱臼	3	上腕骨骨折 3
4	肩甲骨骨折 1	4	上腕骨骨折 4
5	肩甲骨骨折 2	5	上腕骨骨折 5
6	上腕骨骨折 1	6	前腕骨骨折1
7	上腕骨骨折 2	7	前腕骨骨折2
8	上腕骨骨折 3	8	前腕骨骨折3
9	肩関節脱臼 1	9	肘関節脱臼 1
10	肩関節脱臼 2	10	肘関節脱臼 2
11	肩関節脱臼 3	11	肘軟部組織損傷 1
12	肩軟部組織損傷 1	12	肘軟部組織損傷2
13	肩軟部組織損傷 2	13	1 年間のまとめ 1
14	前期のまとめ	14	1 年間のまとめ 2
15	期末試験	15	期末試験

講義の進め方(指導方法)

・国家試験は教科書が原則なので教科書に沿った講義が中心。

成績評価(方法・基準)

期末テスト・授業態度・出欠席で評価

使用教材(教科書、教材等)

柔道整復学・理論編
柔道整復学・実技編

年度	科目番号	科目名	分野	開講時期	学年	取得単位数
2024	2-12	臨床柔道整復学Ⅲ	専門	通年	2	2

講師名	実務経験・関連資格
永井　よりか	2006 年 4 月より接骨院に勤務し、2011 年 4 月より本校附属接骨院勤務を経て、2014 年 4 月より本校教員となる。柔道整復師免許、柔道整復師専科教員

講義目的

臨床の場において遭遇する機会の多い前腕部の損傷について、概要・治療法・臨床上の注意点等を習得する。

講義内容

機能解剖、発生機序、症状、治療法を損傷別の特徴を踏まえながら学習する。

前期授業計画		後期授業計画	
1	前腕部の解剖と機能	1	手関節部の軟部組織損傷 ①
2	前腕骨骨幹部の骨折 ①	2	手関節部の軟部組織損傷 ②
3	前腕骨骨幹部の骨折 ②	3	手・指部の解剖と機能
4	前腕部の軟部組織損傷 ①	4	中手骨部の骨折 ①
5	前腕部の軟部組織損傷 ②	5	中手骨部の骨折 ②
6	前腕部の軟部組織損傷 ③	6	手根中手関節の脱臼
7	前腕部の損傷のまとめ	7	手関節部の損傷のまとめ
8	手関節部の解剖と機能	8	指骨の骨折 ①
9	前腕骨遠位端部骨折 ①	9	指骨の骨折 ②
10	前腕骨遠位端部骨折 ②	10	中手指節関節・指節間関節の脱臼 ①
11	手根骨部の骨折 ①	11	中手指節関節・指節間関節の脱臼 ②
12	手根骨部の骨折 ②	12	手部，指部の軟部組織損傷 ①
13	手関節部の脱臼	13	手部，指部の軟部組織損傷 ②
14	前期試験	14	後期試験
15	解答・解説	15	解答・解説

講義の進め方(指導方法)

教科書を中心に補足資料を用いながら講義を行う。
小テストを行う。

成績評価(方法・基準)

授業態度、小テスト、定期試験で評価する。

使用教材(教科書、教材等)

教科書(南江堂　全国柔道整復学校協会　柔道整復学理論編)を使用する
その他

年度	科目番号	科目名	分野	開講時期	学年	取得単位数
2024	2-13	臨床柔道整復学Ⅳ	専門	通年	2	2

講師名	実務経験・関連資格
岡田　郁子	柔道整復師免許、専科教員

講義目的

下肢の損傷(骨盤、大腿部、膝関節部の骨折・脱臼・軟部組織損傷)を理解する

講義内容

教科書(南江堂　全国柔道整復学校協会　柔道整復学理論編)を使用する

	前期授業計画		後期授業計画
1	骨盤部の解剖と機能①	1	前期の復習
2	骨盤部の解剖と機能②	2	股関節部の軟部組織損傷①
3	骨盤骨骨折①	3	股関節部の軟部組織損傷②
4	骨盤骨骨折②	4	復習
5	復習	5	大腿部の解剖
6	股関節部の解剖と機能	6	大腿骨骨幹部骨折
7	中間試験	7	復習
8	大腿骨近位端部骨折①	8	中間試験
9	大腿骨近位端部骨折②	9	大腿部の軟部組織損傷①
10	大腿骨近位端部骨折③	10	大腿部の軟部組織損傷②
11	復習	11	復習
12	股関節脱臼①	12	大腿骨遠位端部骨折①
13	股関節脱臼②	13	大腿骨遠位端部骨折②
14	復習	14	復習
15	前期期末試験	15	後期期末試験

講義の進め方(指導方法)

教科書の内容に沿って、必要に応じてプリント及びパワーポイント等を用いて解説指導する。
小テストを行う。

成績評価(方法・基準)

授業態度、定期試験で評価する

使用教材(教科書、教材等)

柔道整復学理論編
その他

年度	科目番号	科目名	分野	開講時期	学年	取得単位数
２０２４	2-14	臨床柔道整復学Ⅴ	専門	通年	2	2

講師名	実務経験・関連資格
疋田　拓也	柔道整復師、専科教員、認定実技審査員

講義目的

本授業は下肢の損傷(膝蓋骨、下腿部、足関節部、足趾部の骨折・脱臼・軟部組織損傷)を学習します。

講義内容

下肢の骨折、脱臼、軟部組織損傷に関する座学と実技授業を、教科書を中心に行います。

前期授業計画		後期授業計画	
1	オリエンテーション 膝蓋骨骨折	1	膝蓋骨脱臼
2	下腿骨近位端部骨折 ①	2	膝関節脱臼 ①
3	下腿骨近位端部骨折 ②	3	膝関節脱臼 ② 足部の脱臼 ①
4	下腿骨近位端部骨折 ③	4	足部の脱臼 ②
5	下腿骨骨幹部骨折	5	膝関節部の軟部組織損傷 ① 膝関節部の軟部組織損傷 ②
6	下腿骨遠位端部骨折 ①	6	膝関節部の軟部組織損傷 ③ 下腿部の軟部組織損傷 ①
7	下腿骨遠位端部骨折 ②	7	下腿部の軟部組織損傷 ②
8	下腿骨遠位端部骨折 ③	8	足関節部の軟部組織損傷 ① 足関節部の軟部組織損傷 ②
9	下腿骨遠位端部骨折 ④	9	足関節部の軟部組織損傷 ③
１０	足・足趾骨折 ①	１０	足・趾部の軟部組織損傷 ①
１１	足・足趾骨折 ②	１１	足・趾部の軟部組織損傷 ②
１２	足・足趾骨折 ③ 前期まとめ ①	１２	後期まとめ
１３	前期まとめ ②	１３	定期試験対策
１４	定期試験	１４	定期試験
１５	解答と解説	１５	解答と解説

講義の進め方（指導方法）

教科書を中心に講義を行います。
小テストあり。※日程は前後することがある

成績評価（方法・基準）

授業態度、定期試験で評価評価します。

使用教材（教科書、教材等）

柔道整復学(理論編・実技編)
配布資料

年度	科目番号	科目名	分野	開講時期	学年	取得単位数
2024	2-15	柔道整復実技Ⅲ	専門	通年	2	2

講師名	実務経験・関連資格
長坂　愛	柔道整復師免許、柔道整復師専科教員

講義目的

・触診の技術を修得する。
・基本包帯法、冠名包帯法、部位別包帯法を修得し、自ら必要な包帯法を考えられるようになる。
・臨床における評価・施術の流れ、構築の仕方を学習する。

講義内容

・患部の確実な固定のために主要な骨・筋・靭帯の触診を行う。
・基本包帯法を修得し、自ら必要な包帯法を考え実践する。
・ロールプレイを通じた施術の構築を行う。

前期授業計画		後期授業計画	
1	基本包帯の復習・オリエンテーション	1	前期の復習
2	包帯の走行① 上肢	2	医療 面接
3	包帯の走行② 下肢	3	後療法①
4	触診：肩甲骨、鎖骨、上腕骨 冠名包帯法の復習①	4	後療法② 触診：脊柱に関連する諸組織
5	冠名包帯法の復習② 触診：足部の骨、靭帯	5	触診：頸部の筋 手技療法
6	足関節の固定①	6	触診：股関節に関連する筋 ストレッチ
7	足関節の固定②	7	触診：膝関節に関連する骨・靭帯・筋 テスト法
8	テーピング法①	8	触診：足関節および足部に関連する筋
9	テーピング法②	9	ロールプレイ①
10	触診：腰部	10	ロールプレイ②
11	さらし包帯の扱い 腰部の固定①	11	ロールプレイ③
12	腰部の固定②	12	ロールプレイまとめ
13	復習	13	復習
14	実技試験	14	実技試験
15	まとめ	15	まとめ

講義の進め方（指導方法）

・学生同士触診、テスト法、固定を行う。
・自ら考えられるよう、基礎知識（解剖学・運動学）を事前に修得しておく。

成績評価（方法・基準）

・実技試験によって評価する。

使用教材（教科書、教材等）

・テキスト：機能解剖学的触診技術（上肢・下肢・体幹）
・教科書：柔道整復学（理論編・実技編）包帯固定学

年度	科目番号	科目名	分野	開講時期	学年	取得単位数
２０２４	2-16	柔道整復実技Ⅳ	専門	通年	2	2

講師名	実務経験・関連資格
疋田　拓也	柔道整復師、専科教員、認定実技審査員 2002 年より接骨院に勤務し、2021 年 4 月より本校教員となる。

講義目的

本授業は外傷の処置に必要な固定材料の作成と固定法を学習します。
3 年次におこなう認定実技審査の基礎技術を学び、適切な包帯の選択と扱い方、症状にあった固定材料の選択と作成、固定法を学習します。また生徒同士で臨床を想定したグループワークをおこない、身体を診る力と検査法・固定法を修得します。

講義内容

前期:固定材料の作成と施行方法の学習・部位別固定法の学習
後期:グループワークによる検査法と固定法の学習

前期授業計画		後期授業計画	
1	オリエンテーション、部位別包帯法①(上肢)	1	テーピング固定(足関節部:バスケットウィーブ・フィギアエイト・ヒールロック固定)
2	部位別包帯法②(上肢・下肢)	2	診察法(接遇・配慮)
3	冠名包帯法(デゾー包帯法・ウェルポー包帯法・ジュール包帯法)	3	検査法①(肩関節部)
4	固定材料の作成①:厚紙副子	4	固定法①(肩関節部の固定材料を用いた固定法)
5	厚紙副子を用いた固定法(足関節部)	5	検査法②(肘関節部から手指部)
6	固定材料の作成②:アルフェンス	6	固定法②(肘関節部から手指部の固定材料を用いた固定法)
7	アルフェンスを用いた固定法(手指部)	7	中間実技試験
8	中間実技試験	8	検査法③(股関節部)
9	固定材料の作成③:金属副子・三角巾	9	固定法③(股関節部の固定法)
１０	金属副子を用いた固定法(上肢)	１０	検査法④(膝関節部)
１１	金属副子を用いた固定法(下肢)	１１	固定法④(膝関節部の固定法)
１２	固定材料の作成④:プライトン	１２	検査法⑤(下腿部から足関節部)
１３	プライトンを用いた固定法(手関節部)	１３	固定法⑤(下腿部から足関節部の固定法)
１４	期末実技試験	１４	期末実技試験
１５	期末実技試験	１５	期末実技試験

講義の進め方（指導方法）

生徒同士 2 人組もしくは 4 人組で授業を進行します。
臨床を想定した接遇・対応・態度を考慮し、より実践に近い立ち振る舞いを意識した実技を行います。またグループワークは 3 年次の認定実技審査を想定した内容になります。

成績評価（方法・基準）

前・後期それぞれ 2 回、計 4 回の実技試験の成績(90%)、身だしなみと授業態度(10%)とで総合的に評価します。

使用教材（教科書、教材等）

柔道整復学(理論編・実技編)
包帯固定学
解剖学
配布資料

年度	科目番号	科目名	分野	開講時期	学年	取得単位数
2024	2-17	外傷の保存療法・物理療法	専門	前期	2	2

講師名	実務経験・関連資格
星　勇人	柔道整復師免許、柔道整復師専科教員

講義目的

・臨床の現場での「施術」に必要とされる物理療法の知識を身につける。
・物理療法機器の特性や用途，取り扱いを修得する。
・柔道整復師の外傷に対する保存療法を理解し、修得する。

講義内容

・物理療法の目的，分類，用法（取り扱い），効果，注意事項について。
・物理療法が適応する疾患や疼痛の種類及びメカニズムについて。
・柔道整復師が実施する保存療法の種類、特徴、方法、注意点について。

前期授業計画		後期授業計画	
1	物理療法の目的，分類，安全対策	1	
2	物理療法と疼痛	2	
3	主要な物理療法　a. 電気療法	3	
4	主要な物理療法　b. 温熱療法	4	
5	主要な物理療法　c. 光線療法	5	
6	主要な物理療法　d. 寒冷療法	6	
7	主要な物理療法　e. 牽引療法　f.その他	7	
8	中間試験（物理療法機器の取扱い）	8	
9	損傷の診察	9	
10	損傷の診察	10	
11	鑑別診断～説明と同意	11	
12	後療法	12	
13	後療法～治癒の判定・予後	13	
14	診察のフローチャート	14	
15	期末試験（外傷の保存療法）	15	

講義の進め方（指導方法）

・教科書をベースに各種物理療法について学習する。
・実際に物理療法機器を使用して実演及び体感させる。
・実技書を基に、外傷の保存療法の実際について講義する。

成績評価（方法・基準）

定期試験（中間・期末試験）を中心に評価する。

使用教材（教科書、教材等）

教科書（柔道整復学理論編・実技編）
プリント、パワーポイント

年度	科目番号	科目名	分野	開講時期	学年	取得単位数
2024	2-18	臨床実習Ⅱ	専門	後期	2	2

講師名	実務経験・関連資格
永井　よりか	柔道整復師免許、柔道整復師専科教員

講義目的

・臨床実習の意義を共有する。
・臨床の現場で必要となる知識や技術を身につける。
・学校の講義だけでは習得しえない、現場での業務や患者対応を学ぶ。

講義内容

・臨床実習の概要や目的・到達目標を理解し、個々に目標達成に向けた取り組みを行う。
・臨床の現場で必要となる付帯業務（清掃，患者誘導，物理療法機器取扱い）について。
・整形外科領域における柔道整復師の役割について実習を通して学ぶ。

授業計画（後期）

1	オリエンテーション① 臨床実習の目的・目標	16	接骨院見学・実習⑤ 外部の提携施術所
2	オリエンテーション② 臨床実習で必要な知識	17	接骨院見学・実習⑥ 外部の提携施術所
3	オリエンテーション③ 臨床実習で必要な技術	18	接骨院見学・実習⑦ 外部の提携施術所
4	ガイダンス① 事前評価（あいさつ、言葉遣い）	19	接骨院見学・実習⑧ 外部の提携施術所
5	ガイダンス② 事前評価（身だしなみ、付帯業務）	20	多職種連携について① 整形外科分野
6	接骨院演習① 附属接骨院（受付業務、患者誘導）	21	多職種連携について② 介護分野
7	接骨院演習② 附属接骨院（環境整備、物理療法）	22	病院見学・実習① 医療機関（整形外科）
8	接骨院見学 外部の提携施術所	23	病院見学・実習② 医療機関（整形外科）
9	柔道整復術について 講習・実践	24	病院見学・実習③ 医療機関（整形外科）
10	スポーツ現場における柔道整復術について 講習・実践	25	病院見学・実習④ 医療機関（整形外科）
11	接骨院見学・実習① 外部の提携施術所	26	病院見学・実習⑤ 医療機関（整形外科）
12	接骨院見学・実習② 外部の提携施術所	27	病院見学・実習⑥ 医療機関（整形外科）
13	接骨院見学・実習③ 外部の提携施術所	28	超音波画像診断装置の理解
14	接骨院見学・実習④ 外部の提携施術所	29	超音波画像の読影の仕方
15	臨床実習のまとめ 中間評価	30	臨床実習のまとめ 最終評価

講義の進め方（指導方法）

・附属接骨院において事前学習・評価を行い、臨床実習に必要な知識と技術を身につける。
・外部施術所において接骨院業務や実際の患者対応を学ぶ。

成績評価（方法・基準）

事前評価，中間評価，最終評価を中心に、出欠席や実習態度も踏まえて評価する。

使用教材（教科書、教材等）

臨床実習ガイドライン
教科書（柔道整復学理論編・実技編）
プリント，スライド

年度	科目番号	科目名	分野	開講時期	学年	取得単位数
2024	3-01	高齢者・競技者の生理学	専門基礎	前期	3	1

講師名	実務経験・関連資格
西連寺　拓	医師

講義目的

臨床に出ると高齢者や競技者に対しての施術を行う機会が多くあります。高齢者や発達期の子供の生理学的特徴、競技者のトレーニングによる生理学的変化を知っておくことが大事です。これまでの生理学の知識を踏まえ、年齢や環境に伴う人体の変化を理解することを目的とします。

講義内容

高齢者と競技者の生理学的特徴、加齢やトレーニングに伴う身体の生理学的変化
これまでに学んだ生理学の復習

前期授業計画		後期授業計画	
1	高齢者の生理学 (1)	1	
2	高齢者の生理学 (2)	2	
3	高齢者の生理学 (3)	3	
4	高齢者の生理学 (4)	4	
5	高齢者の生理学 (5)	5	
6	高齢者の生理学 (6)	6	
7	高齢者の生理学 (7)	7	
8	競技者の生理学 (1)	8	
9	競技者の生理学 (2)	9	
10	競技者の生理学 (3)	10	
11	競技者の生理学 (4)	11	
12	競技者の生理学 (5)	12	
13	競技者の生理学 (6)	13	
14	競技者の生理学 (7)	14	
15	期末試験	15	

講義の進め方(指導方法)

教科書の流れに沿って進めます。
講義は主にスライドを使用し、配布することがあります。
学生側からの質問は歓迎します。

成績評価(方法・基準)

定期試験により評価します。

使用教材(教科書、教材等)

・教科書:『生理学　改訂第4版』(南江堂 2020)公益社団法人 全国柔道整復学校協会 監修, 彼末一之 編集
・配布資料

年度	科目番号	科目名	分野	開講時期	学年	取得単位数
2024	3-02	一般臨床医学Ⅱ	専門基礎	通年	3	2

講師名	実務経験・関連資格
天野　出月	2008 年 4 月より医師として病院に勤務。2021 年 4 月より本校講師となる。医師免許

講義目的

内科学の立場から、様々な疾患の病態・診断・治療を学習する基礎となる基本的な知識を身につける。
臨床医学入門と内科診断学が中心となる。

講義内容

内科疾患の診断・治療を学ぶための基礎的な知識を講義する。
特に疾患の病態生理、その徴候をとらえる技術、臨床医学全体に必要な科学的な考え方を中心に具体的に述べる。

前期授業計画		後期授業計画	
1	内分泌(1)	1	国家試験対策(問題演習)
2	内分泌(2)	2	国家試験対策(問題演習)
3	血液・造血器(1)	3	国家試験対策(問題演習)
4	血液・造血器(2)	4	国家試験対策(問題演習)
5	腎・泌尿器(1)	5	国家試験対策(問題演習)
6	腎・泌尿器(2)	6	国家試験対策(問題演習)
7	神経疾患 (1)	7	国家試験対策(問題演習)
8	神経疾患 (2)	8	国家試験対策(問題演習)
9	神経疾患 (3)	9	国家試験対策(問題演習)
10	感染症(1)	10	国家試験対策(問題演習)
11	感染症(2)	11	国家試験対策(問題演習)
12	リウマチ・アレルギー性疾患	12	国家式験対策(問題演習)
13	環境因子・その他	13	国家試験対策(問題演習)
14	期末試験	14	最終試験(一般臨床医学・外科学全範囲)
15	期末試験解説	15	試験解説

講義の進め方(指導方法)

教科書の内容を中心として講義を進める。できるだけ具体的な理解ができるように分かりやすく解説する。知識が相互によく関連するように、重要な内容は繰り返し確認する。また、重要度を明確にして解説をする。

成績評価(方法・基準)

筆記試験(国家試験問題または匿家試験問題類似の内容とする)

使用教材(教科書、教材等)

教科書:一般臨床医学(医歯薬出版)
教材:適宜プリントを配布する。

年度	科目番号	科目名	分野	開講時期	学年	取得単位数
２０２４	3-03	リハビリテーション医学	専門基礎	通年	3	2

講師名	実務経験・関連資格
朝倉智之	大学教員・理学療法士・群馬県スポーツ協会認定アスレティックトレーナー

講義目的

ハビリテーションの理念と関連職種について理解する。柔道整復の隣接領域である理学療法、作業療法、言語療法の
概要を把握する。リハビリテーションの対象疾患とその障害について理解する。

講義内容

リハビリテーションにおける障害の捉え方と介入に関する基礎的な学習の後、代表的な疾患について病態とともにリハビリテーション評価、治療の展開を解説する。

前期授業計画		後期授業計画	
1	オリエンテーション リハビリテーションの理念	1	リハビリテーション治療技術③ 装具・義肢
2	リハビリテーションの対象と障害者の実際 障害の階層とアプローチ	2	リハビリテーション治療技術④ 歩行補助具・車椅子・自助具
3	リハビリテーション評価学① 運動学と機能解剖・身体所見	3	高齢者のリハビリテーション① 平均寿命と健康寿命・フレイル・医療制度・認知症
4	リハビリテーション評価学② 小児運動発達・ADL・心理的評価	4	高齢者のリハビリテーション② 虐待・介護予防・地域リハビリテーション
5	リハビリテーション評価学③ 認知症・電気生理学的検査	5	高齢者のリハビリテーション③ パーキンソン病
6	リハビリテーション評価学④ 画像診断・運動失調	6	高齢者のリハビリテーション④ 脳卒中
7	リハビリテーション障害学①	7	中間テスト
8	中間テスト	8	運動器のリハビリテーション①
9	リハビリテーション障害学②	9	運動器のリハビリテーション②
１０	リハビリテーション治療学①	１０	運動器のリハビリテーション③
１１	リハビリテーション治療学②	１１	運動器のリハビリテーション④
１２	リハビリテーション医学の関連職種	１２	リハビリテーションと福祉
１３	リハビリテーション治療技術① 理学療法・作業療法	１３	障害者スポーツ
１４	期末試験	１４	期末試験
１５	リハビリテーション治療技術② 言語聴覚療法	１５	総まとめ

講義の進め方（指導方法）

教科書を中心に講義する。質問は授業中に随時受け付ける。
必ず予習をして臨むこと（教科書を読み込んでおく等）。
一部実技･体験の講義を含める。

成績評価（方法・基準）

中間試験の結果（35%）、期末試験の結果（35%）、小テストを含む普段の授業への参加姿勢（30%）をもとに判定する。

使用教材（教科書、教材等）

三上真弘編：リハビリテーション医学，南江堂
主体的な授業への参加を期待する。

年度	科目番号	科目名	分野	開講時期	学年	取得単位数
２０２４	3-04	柔道整復術の適応	専門基礎	通年	3	2

講師名	実務経験・関連資格
杉山　渉	歯科医師 柔道整復師、専科教員

講義目的

柔道整復師が業務を遂行するに当たり、患者に対する医療安全の観点から患者の状態を正確に把握し、施術が業務範囲内にあるかどうかを適切に判断し実施できる能力を身に付けることを目的とする。

講義内容

接骨院における施術において、柔道整復師が自身の力量を認識し、患者にとって最適な医療環境を作り上げる必要がある。　本講義では整形外科疾患を含め、遭遇しやすい疾患の基礎知識を確認した上で、柔道整復師としての関わり方について講義する。それに伴い、国家試験対策として「解剖学」を中心に復習を行う。

前期授業計画		後期授業計画	
1	１．柔道整復術の適否を考える ２．損傷に類似した症状を示す疾患 A.内臓疾患の投影を疑う疼痛	1	「解剖学」国家試験対策
2	２．損傷に類似した症状を示す疾患 B.腰痛を伴う疾患	2	「解剖学」国家試験対策
3	２．損傷に類似した症状を示す疾患 C.化膿性炎症など	3	「解剖学」国家試験対策
4	３．血流障害を伴う損傷	4	「解剖学」国家試験対策
5	４．末梢神経損傷を伴う損傷	5	「解剖学」国家試験対策
6	５．脱臼骨折	6	「解剖学」国家試験対策
7	６．外出血を伴う損傷」	7	「解剖学」国家試験対策
8	７．病的骨折および脱臼	8	「解剖学」国家試験対策
9	８．意識障害を伴う損傷①	9	「解剖学」国家試験対策
１０	８．意識障害を伴う損傷②	１０	「解剖学」国家試験対策
１１	９．脊髄症状のある損傷	１１	「解剖学」国家試験対策
１２	10．呼吸運動障害を伴う損傷	１２	「解剖学」国家試験対策
１３	11．内臓損傷の合併が疑われる損傷	１３	「解剖学」国家試験対策
１４	12．高エネルギー外傷	１４	「解剖学」国家試験対策
１５	期末試験	１５	期末試験

講義の進め方（指導方法）

まとめのプリント配布し、それに基づき授業を進める。

成績評価（方法・基準）

適宜知識の確認のための小テストを行うが、期末テストの評点と合わせて 100 点満点とする。
授業態度等により、加減する場合がある。

使用教材（教科書、教材等）

公益社団法人全国柔道整復学校協会監修、有沢治著：医療の中の柔道整復、南江
学校協会指定教科書：解剖学（医歯薬出版）

年度	科目番号	科目名	分野	開講時期	学年	取得単位数
2024	3-05	関係法規	専門基礎	通年	3	2

講師名	実務経験・関連資格
星　勇人	柔道整復師、柔道整復専科教員

講義目的

国家試験の合格だけでなく、実際の実務・運営における知識を養うことを目的とする。

講義内容

前期は、Ⅰ序論、Ⅱ柔道整復師法とその関連内容を行う。
後期は、Ⅲ関係法規と国家試験対策を行う。

前期授業計画		後期授業計画	
1	序論　総則　免許	1	序論　総則　免許復習
2	総則，柔道整復国家試験	2	柔道整復国家試験復習
3	業務，施術所	3	業務，施術所復習
4	雑則	4	雑則，罰則復習
5	罰則	5	医療従事者の身分関係法　1
6	指定登録機関及び指定試験機関	6	医療従事者の身分関係法　2
7	附則	7	医療従事者の身分関係法　3
8	中間試験	8	医療法　1
9	医療従事者の身分関係法　1	9	医療法　2
10	医療従事者の身分関係法　2	10	復習　1
11	医療従事者の身分関係法　3	11	復習　2
12	医療法　1	12	復習　3
13	医療法　2	13	復習　4
14	復習	14	復習　5
15	前期試験	15	後期試験

講義の進め方（指導方法）

理論において教科書を中心とし大切なポイントを集中的に行う。

成績評価（方法・基準）

定期試験（中間・期末）、レポート等

使用教材（教科書、教材等）

教科書：関係法規（医歯薬出版）、配布する資料等

年度	科目番号	科目名	分野	開講時期	学年	取得単位数
2024	3-06	医学史	専門基礎	前期	3	1

講師名	実務経験・関連資格
岡田　郁子	柔道整復師免許、柔道整復師専科教員

講義目的

・医学（医療）の発展の歴史を通じて医療倫理を学ぶ。
・柔道および柔道整復師の歴史を理解し、理想とする将来像を見つけ出す。

講義内容

・古代～現代までの医療の発展と、そこに携わってきた人々の心情や倫理観について。
・柔道の歴史及び柔道整復師の誕生から現在に至るまでの道のりについて。

前期授業計画		後期授業計画	
1	オリエンテーション　医学の始まり	1	
2	世界の医学史①	2	
3	世界の医学史②	3	
4	世界の医学史③	4	
5	日本の医学史①	5	
6	日本の医学史②	6	
7	日本の医学史③	7	
8	医療の発展	8	
9	中間試験	9	
10	柔道整復師と柔道整復学	10	
11	柔道整復師と柔道整復学①	11	
12	柔道整復師と柔道整復学②	12	
13	柔道整復師と柔道整復学③	13	
14	柔道整復師の倫理綱領と今後の心得	14	
15	期末試験	15	

講義の進め方（指導方法）

・医学の歴史まんがを用いて主要なポイントを押さえつつ、医療の発展の流れを把握していく。
・主に柔道整復学の教科書を参考にして柔道や柔道整復師の歴史をまとめていく。

成績評価（方法・基準）

定期試験（中間・期末試験）、授業態度、出欠席で評価する。

使用教材（教科書、教材等）

教科書（柔道整復学）、プリント
パワーポイント

年度	科目番号	科目名	分野	開講時期	学年	取得単位数
2024	3-07	柔道Ⅲ	専門基礎	前期	3	1

講師名	実務経験・関連資格
長坂　愛	柔道整復師養成専門学校で柔道実技の指導に携わる。その経験を活かし安全面に十分配慮しながら教授する。

講義目的

柔道整復師と柔道の関係性を再確認し、姿勢と組み方、崩しと体捌き、作りと掛け、受身についての高度な表現とその解説をできるようになる。また、各基本動作が総合され、投技を機能的に組み込み発展させていく。
併せて認定実技審査に向け、柔道実技を修得する。

講義内容

・精力善用・自他共栄の考え方を基に公正な態度を養い、安全に留意し自己能力を知り特性を高め、礼法から医療人の心構えを学ぶ。
・投の形において技を正しく発展させ、個人差に即する応用変化をはかり技の開発、伸展に努める。
・得意技に定着した組み方、崩し方、作り方、掛り方の積極的な改善に打ち込み、独自の優れた技を築く。

前期授業計画		後期授業計画	
1	2年時の復習　授業概要説明	1	
2	礼法　受身　投の形(浮落)　約束稽古	2	
3	礼法　受身　投の形(背負投)　約束稽古	3	
4	礼法　受身　投の形(肩車)　約束稽古	4	
5	礼法　受身　投の形(手技)　約束稽古	5	
6	礼法　受身　投の形(浮腰)　約束稽古	6	
7	礼法　受身　投の形(払腰)　約束稽古	7	
8	礼法　受身　投の形(釣込腰)　約束稽古	8	
9	礼法　受身　投の形(腰技)　約束稽古	9	
10	礼法　受身　投の形(送足払)　約束稽古	10	
11	礼法　受身　投の形(支釣込足)　約束稽古	11	
12	礼法　受身　投の形(内股)　約束稽古	12	
13	礼法　受身　投の形(足技)　約束稽古	13	
14	期末試験	14	
15	まとめ	15	

講義の進め方(指導方法)

・正確な礼法、受身、投の形ができるようペアで呼吸を合わせられるよう指導する。
・基本動作の正確さ、力強さなど常に留意し、相手の変化を見極めて早く正確な技を掛け合って乱取りができるよう繰り返し実施する。

成績評価(方法・基準)

実技試験で100点満点とし、60点以上をもって合格とする。

使用教材(教科書、教材等)

必要に応じて適宜プリントを配布する。

年度	科目番号	科目名	分野	開講時期	学年	取得単位数
2024	3-08	職業倫理と社会保障	専門基礎	後期	3	2

講師名	実務経験・関連資格
永井　よりか	2006 年 4 月より接骨院に勤務し、2011 年 4 月より本校附属接骨院勤務を経て、2014 年 4 月より本校教員となる。柔道整復師免許、柔道整復師専科教員

講義目的

・社会保障の内容や制度について理解する。
・柔道整復師における適切な療養費の扱いについて学ぶ。
・医療従事者としての職業倫理を身につける。

講義内容

・社会保障制度や医療保障制度について。
・療養費制度、殊に受領委任払いについて。
・現場における患者への対応の仕方について。

前期授業計画		後期授業計画	
1	社会保障とは	1	
2	社会保険制度	2	
3	医療保険制度 ①	3	
4	医療保険制度 ②	4	
5	医療保険制度 ③	5	
6	療養費制度の概要	6	
7	療養費制度の概要	7	
8	療養費制度の概要 施術録・支給申請書の作成	8	
9	社会保障・療養費まとめ	9	
10	医療従事者の職業倫理	10	
11	柔道整復師に必要な基本的倫理観と患者対応	11	
12	柔道整復師の社会的責任と対応 グループ・ディスカッション	12	
13	医療における情報と責任	13	
14	期末試験	14	
15	解答・解説	15	

講義の進め方（指導方法）

・教科書を中心に昨今の状況を踏まえながら講義を行う。
・症例を提示し、ディスカッションを行いながら、個々の思考能力や解決能力を引き出す。

成績評価（方法・基準）

定期試験を中心に評価する。

使用教材（教科書、教材等）

教科書、プリント、パワーポイント

年度	科目番号	科目名	分野	開講時期	学年	取得単位数
2024	3-09	臨床柔道整復学VI	専門	通年	3	2

講師名	実務経験・関連資格
永井　よりか	柔道整復師、柔道整復専科教員

講義目的

国家試験対策として、試験に必要な知識・技術を習得する。

講義内容

柔道整復学を中心に国家試験出題科目における頻出ポイントのまとめ及び解読法を体得する。

前期授業計画		後期授業計画	
1	オリエンテーション 第32回柔道整復師国家試験問題に挑戦	1	前期復習問題
2	前腕部損傷①	2	生理学対策①
3	前腕部損傷②	3	生理学対策②
4	手関節部損傷①	4	問題演習
5	手関節部損傷②	5	生理学対策③
6	手関節部損傷③	6	生理学対策④
7	手関節部損傷④	7	問題演習
8	手指部の損傷①	8	柔整・整形対策①
9	手指部の損傷②	9	柔整・整形対策②
10	手指部の損傷③	10	柔整・整形対策③
11	手指部の損傷④	11	柔整・整形対策④
12	総合問題①	12	問題演習
13	総合問題②	13	問題演習
14	定期試験	14	定期試験
15	解答・解説	15	解答と解説

講義の進め方（指導方法）

教科書を中心に講義、演習問題を行う。
前期には重要項目を習得（インプット）し、後期は問題における知識の活用（アウトプット）を行っていく。
日程は前後することがある。

成績評価（方法・基準）

授業態度、定期試験等で評価する。

使用教材（教科書、教材等）

教科書：柔道整復学理論編・実技編，生理学，整形外科学
その他：パワーポイント，プリント

年度	科目番号	科目名	分野	開講時期	学年	取得単位数
2024	3-10	臨床柔道整復学Ⅶ	専門	通年	3	2

講師名	実務経験・関連資格
大串　紫紀穂	柔道整復師、柔道整復専科教員

講義目的

国家試験対策として、試験に必要な知識を習得・説明できるようになる。

講義内容

柔整の過去問を中心に教科書を基に学習する

前期授業計画		後期授業計画	
1	柔整①	1	柔整①
2	柔整②	2	柔整②
3	柔整③	3	柔整③
4	柔整④	4	柔整④
5	柔整⑤	5	柔整⑤
6	柔整⑥	6	柔整⑥
7	柔整⑦	7	柔整⑦
8	柔整⑧	8	柔整⑧
9	柔整⑨	9	柔整⑨
10	柔整⑩	10	柔整⑩
11	柔整⑪	11	柔整⑪
12	柔整⑫	12	柔整⑫
13	柔整⑬	13	柔整⑬
14	柔整⑭	14	柔整⑭
15	期末試験	15	期末試験

講義の進め方(指導方法)

出題率の高い項目を中心に、展開問題を作りグループで問題発表、解説を行う。

成績評価(方法・基準)

出欠席・小テスト・提出物および期末試験の点数を基本とする

使用教材(教科書、教材等)

解剖学、運動学、柔整、配布資料

年度	科目番号	科目名	分野	開講時期	学年	取得単位数
2024	3-11	柔道整復術適応の臨床的判定	専門	通年	3	2

講師名	実務経験・関連資格
岡田　宏道	柔道整復師免許・専科教員、接骨院院長 2004 年より接骨院に勤務し、2012 年に接骨院を開業、2020 年より本校講師となる。

講義目的

・免許取得後に役立つように、患者さんに対して適切な判断ができるよう知識を習得する

講義内容

・施術に適応と医用画像の理解の教科書をベースに指導をおこなう

前期授業計画		後期授業計画	
1	柔道整復術の適否を考える ①	1	脊髄症状のある損傷 ①
2	柔道整復術の適否を考える ②	2	脊髄症状のある損傷 ②
3	損傷に類似した症状を示す疾患 ①	3	呼吸運動障害を伴う損傷
4	損傷に類似した症状を示す疾患 ②	4	内臓損傷の合併が疑われる損傷
5	損傷に類似した症状を示す疾患 ③	5	高エネルギー外傷
6	血流障害を伴う損傷	6	医用画像の理解 ①
7	末梢神経損傷を伴う損傷 ①	7	医用画像の理解 ②
8	末梢神経損傷を伴う損傷 ②	8	医用画像の理解 ③
9	脱臼骨折	9	医用画像の理解 ④
10	外出血を伴う損傷 ①	10	医用画像の理解 ⑤
11	外出血を伴う損傷 ②	11	医用画像の理解 ⑥
12	病的骨折および脱臼	12	医用画像の理解 ⑦
13	意識障害を伴う損傷	13	医用画像の理解 ⑧
14	前期の総復習	14	後期の総復習
15	前期の期末試験	15	後期の期末試験

講義の進め方（指導方法）

・免許を取得した際に、患者さんに対しての適応（判断）ができるように指導する。

成績評価（方法・基準）

・授業態度、出欠日数、実技の期末試験をおこない評価する。

使用教材（教科書、教材等）

・施術の適応と医用画像の理解（南江堂）の教科書を使用する

年度	科目番号	科目名	分野	開講時期	学年	取得単位数
2024	3-12	柔道整復実技Ⅴ	専門	通年	3	2

講師名	実務経験・関連資格
大串　紫紀穂	柔道整復師、柔道整復専科教員

講義目的

必修対策・認定実技対策

講義内容

必修の範囲にしぼり、過去問・教科書を基に学習する

	前期授業計画		後期授業計画
1	鎖骨骨折1	1	包帯固定法 1
2	鎖骨骨折2	2	包帯固定法 2
3	鎖骨脱臼 1	3	上肢軟損 1
4	鎖骨脱臼 2	4	上肢軟損 2
5	上腕骨骨折 1	5	下肢軟損 1
6	上腕骨骨折 2	6	下肢軟損 2
7	上腕骨骨折 3	7	下肢軟損 3
8	肩関節脱臼 1	8	過去問 1
9	肩関節脱臼 2	9	過去問 2
10	肩関節脱臼 3	10	過去問 3
11	コーレス骨折	11	過去問 4
12	コーレス骨折	12	過去問 5
13	手指骨折・脱臼	13	過去問 6
14	手指骨折・脱臼	14	過去問 7
15	期末試験	15	期末試験

講義の進め方(指導方法)

国家試験対策の授業をおこないます。

成績評価(方法・基準)

出欠席・小テスト・提出物および期末試験の点数を基本とする

使用教材(教科書、教材等)

柔道整復学(理論編・実技編)
包帯固定学
配布資料

年度	科目番号	科目名	分野	開講時期	学年	取得単位数
２０２４	3-13	柔道整復実技VI	専門	通年	3	2

講師名	実務経験・関連資格
疋田　拓也	柔道整復師、専科教員、認定実技審査員

講義目的

本授業は認定実技審査対策として主に軟部組織損傷の理論と実技を学習します。グループワークを用いて審査を想定したシュミレーションを中心に実技をおこないます。また固定材料の扱い方と作成方法、固定法を学習し、認定実技審査に必要な知識と技術を深めることを目標とします。

講義内容

グループワークによる軟部組織損傷の検査法を中心とした認定実技対策
固定材料の扱い方と固定具の作成、固定法の学習
国家試験の必須対策

前期授業計画		後期授業計画	
1	部位別包帯法（上肢・下肢）	1	認定実技審査対策①（肩腱板損傷）
2	肩腱板損傷に対する検査法・固定法	2	認定実技審査対策②（上腕二頭筋腱損傷）
3	上腕二頭筋腱損傷に対する検査法・固定法	3	認定実技審査対策③（ハムストリングス損傷）
4	ハムストリンス損傷に対する検査法・固定法	4	認定実技審査対策④（大腿四頭筋損傷）
5	大腿四頭筋損傷に対する検査法・固定法	5	認定実技審査対策⑤（膝関節損傷）
6	固定法①（キャストライト）	6	認定実技審査対策⑥（足関節損傷）
7	固定法②（キャストライト）	7	中間実技試験
8	中間実技試験	8	上肢の軟部組織損傷①（手関節部）
9	テーピング固定（膝関節・足関節）	9	上肢の軟部組織損傷②（肘関節部）
１０	膝関節損傷に対する固定法①（側副靭帯・十字靭帯・半月板）	１０	上肢の軟部組織損傷③（肩関節部）
１１	膝関節損傷に対する固定法②（側副靭帯・十字靭帯・半月板）	１１	下肢の軟部組織損傷①（足関節部）
１２	下腿三頭筋損傷に対する検査法・固定法	１２	下肢の軟部組織損傷②（膝関節部）
１３	足関節外側側副靭帯損傷に対する検査法・固定法	１３	下肢の軟部組織損傷③（股関節部）
１４	期末実技試験	１４	期末実技試験
１５	期末実技試験	１５	期末実技試験

講義の進め方（指導方法）

生徒同士２人組もしくは４人組で軟部組織損傷の検査法と固定法を中心に授業を進めます。
また後半は国家試験対策の授業をおこないます。
臨床を想定した接遇・対応・態度を考慮し、より実践に近い立ち振る舞いを意識した実技を行います。

成績評価（方法・基準）

前・後期それぞれ２回、計４回の実技試験の成績（90％）、身だしなみと授業態度（10％）とで総合的に評価します。

使用教材（教科書、教材等）

柔道整復学（理論編・実技編）
包帯固定学
解剖学
配布資料

年度	科目番号	科目名	分野	開講時期	学年	取得単位数
２０２４	2-14	臨床柔道整復学Ⅴ	専門	通年	2	2

講師名	実務経験・関連資格
疋田　拓也	柔道整復師、専科教員、認定実技審査員

講義目的

本授業は下肢の損傷(膝蓋骨、下腿部、足関節部、足趾部の骨折・脱臼・軟部組織損傷)を学習します。

講義内容

下肢の骨折、脱臼、軟部組織損傷に関する座学と実技授業を、教科書を中心に行います。

前期授業計画		後期授業計画	
1	オリエンテーション 膝蓋骨骨折	1	膝蓋骨脱臼
2	下腿骨近位端部骨折 ①	2	膝関節脱臼 ①
3	下腿骨近位端部骨折 ②	3	膝関節脱臼 ② 足部の脱臼 ①
4	下腿骨近位端部骨折 ③	4	足部の脱臼 ②
5	下腿骨骨幹部骨折	5	膝関節部の軟部組織損傷 ① 膝関節部の軟部組織損傷 ②
6	下腿骨遠位端部骨折 ①	6	膝関節部の軟部組織損傷 ③ 下腿部の軟部組織損傷 ①
7	下腿骨遠位端部骨折 ②	7	下腿部の軟部組織損傷 ②
8	下腿骨遠位端部骨折 ③	8	足関節部の軟部組織損傷 ① 足関節部の軟部組織損傷 ②
9	下腿骨遠位端部骨折 ④	9	足関節部の軟部組織損傷 ③
１０	足・足趾骨折 ①	１０	足・趾部の軟部組織損傷 ①
１１	足・足趾骨折 ②	１１	足・趾部の軟部組織損傷 ②
１２	足・足趾骨折 ③ 前期まとめ ①	１２	後期まとめ
１３	前期まとめ ②	１３	定期試験対策
１４	定期試験	１４	定期試験
１５	解答と解説	１５	解答と解説

講義の進め方（指導方法）

教科書を中心に講義を行います。
小テストあり。※日程は前後することがある

成績評価（方法・基準）

授業態度、定期試験で評価評価します。

使用教材（教科書、教材等）

柔道整復学(理論編・実技編)
配布資料

年度	科目番号	科目名	分野	開講時期	学年	取得単位数
2024	3-15	柔道整復実技Ⅷ	専門	前期	3	1

講師名	実務経験・関連資格
長坂　愛	接骨院・整形外科勤務およびトレーナー活動の経験をもとに講義を行う。 柔道整復師免許・専科教員

講義目的

・臨床現場で多くみられる上肢の骨折・脱臼を中心に、理論で学んだ内容を実技に取り入れながら学習し、臨床に応用できる診察・検査・鑑別診断・徒手整復・固定法の技術を身につける。
・認定実技審査の課題を中心に行い、理解力を深める。

講義内容

コーレス骨折、肘関節脱臼、肩関節脱臼、第 2 指背側脱臼、第 5 中手骨頸部骨折、アキレス腱断裂の診察・検査・鑑別診断・徒手整復・固定法・後療法を理論とともに説明し、実技指導を行う。

前期授業計画		後期授業計画	
1	問診・視診・触診	1	
2	コーレス骨折(整復法)	2	
3	コーレス骨折(固定法)	3	
4	肘関節後方脱臼(整復法)	4	
5	肘関節後方脱臼(固定法)	5	
6	肩関節前方脱臼(整復法)	6	
7	肩関節前方脱臼(固定法)	7	
8	手第 2 指 PIP 関節背側脱臼(固定法)	8	
9	第 5 指中手骨頸部骨折(固定法)	9	
10	手指脱臼・骨折(固定法)	10	
11	アキレス腱断裂	11	
12	アキレス腱断裂	12	
13	復習	13	
14	実技試験	14	
15	まとめ	15	

講義の進め方(指導方法)

グループで術者役、患者役、助手役にわかれそれぞれの立場を理解しながら臨床現場を意識して行う。

成績評価(方法・基準)

授業態度、出欠日数、実技の期末試験を総合的に評価する。

使用教材(教科書、教材等)

柔道整復学・理論編(第7版)、実技編(第 2 版)、包帯固定学の教科書を使用する。

年度	科目番号	科目名	分野	開講時期	学年	取得単位数
2024	3-16A	高齢者の外傷予防技術	専門	後期	3	1

講師名	実務経験・関連資格
岡田　郁子	柔道整復師免許・専科教員

講義目的

高齢者に対する具体的な外傷予防の手法を身に付ける。

講義内容

高齢者のさまざまな外傷発生の要因を理解し、外傷予防に対する知識と技術を習得する。

前期授業計画		後期授業計画	
1		1	オリエンテーション
2		2	発達と老化の理解
3		3	認知症の理解
4		4	介護保険制度
5		5	介護の過程
6		6	高齢者介護とICF
7		7	介護予防と生活機能の向上 介護予防・日常生活支援総合事業
8		8	ロコモティブシンドローム
9		9	高齢者自立支援の理解
10		10	機能訓練指導員と機能訓練
11		11	機能訓練で提供する運動と要点①
12		12	機能訓練で提供する運動と要点②
13		13	総合演習
14		14	期末試験
15		15	後期まとめ

講義の進め方(指導方法)

教科書の内容に沿って、必要に応じてプリント及びパワーポイント等を用いて
解説・実技指導を行う。

成績評価(方法・基準)

定期試験による評価、授業態度

使用教材(教科書、教材等)

教科書(競技者の外傷予防)
配布資料

年度	科目番号	科目名	分野	開講時期	学年	取得単位数
2024	3-16B	競技者の外傷予防技術	専門	後期	3	1

講師名	実務経験・関連資格
星　勇人	柔道整復師免許・専科教員

講義目的

競技者に対する具体的な外傷予防の手法を身に付ける。

講義内容

競技者のさまざまな外傷発生の要因を理解し、外傷予防に対する知識と技術を習得する。

前期授業計画		後期授業計画	
1		1	オリエンテーション 運動が生体に与える影響
2		2	運動生理学の概要
3		3	競技者の外傷予防の概要
4		4	外傷の発生要因
5		5	外傷の予防対策
6		6	メディカルチェック（評価と測定）
7		7	コンディショニングの方法と実際
8		8	柔道における肩関節の外傷予防
9		9	水泳における体幹の傷害予防
10		10	バスケットボールにおける膝関節の外傷予防
11		11	サッカーにおける足関節の外傷予防
12		12	成長期の外傷予防
13		13	外傷予防のまとめ
14		14	期末試験
15		15	解答・解説

講義の進め方（指導方法）

教科書の内容に沿って、必要に応じてプリント及びパワーポイント等を用いて
解説・実技指導を行う。

成績評価（方法・基準）

定期試験による評価、授業態度

使用教材（教科書、教材等）

教科書（競技者の外傷予防）
配布資料

年度	科目番号	科目名	分野	開講時期	学年	取得単位数
2024	3-17A	臨床実習ⅢA	専門	後期	3	2/3

講師名	実務経験・関連資格
大串　紫紀穂	柔道整復師免許、柔道整復師専科教員

講義目的

・国家試験に必要な知識を修得する

講義内容

・

	前期授業計画		後期授業計画
1		1	柔整①
2		2	柔整②
3		3	柔整③
4		4	柔整④
5		5	柔整⑤
6		6	柔整⑥
7		7	柔整⑦
8		8	柔整⑧
9		9	柔整⑨
10		10	柔整⑩
11		11	柔整⑪
12		12	柔整⑫
13		13	柔整⑬
14		14	柔整⑭
15		15	期末試験

講義の進め方（指導方法）

・国家試験対策の授業をおこないます。

成績評価（方法・基準）

出欠席・小テスト・提出物および期末試験の点数を基本とする

使用教材（教科書、教材等）

臨床実習ガイドライン、教科書（柔道整復学理論編・実技編，包帯固定学）
プリント、パワーポイント

年度	科目番号	科目名	分野	開講時期	学年	取得単位数
2024	3-17B	臨床実習ⅢB	専門	後期	3	2/3

講師名	実務経験・関連資格
長坂　愛	接骨院・整形外科勤務およびトレーナー活動の経験をもとに講義を行う。 柔道整復師免許・専科教員

講義目的

臨床現場で必要な知識・技術を把握する。職業理解を深め、資格取得後の自身の目標に役立て行動することができる臨床力を身につける。

講義内容

・骨折・脱臼の整復技術・軟部組織損傷の初期処置などを修得できるよう自ら考えて実施する。
・臨床に必要な内容を理解した上で、後療法において臨床的な授業を行う。

前期授業計画		後期授業計画	
1		1	臨床実習の概説
2		2	臨床模擬　骨折の整復技術
3		3	臨床模擬　脱臼の整復技術
4		4	臨床模擬　骨折の初期処置
5		5	臨床模擬　脱臼の初期処置
6		6	臨床模擬　軟部組織損傷の初期処置
7		7	臨床模擬　整復技術・初期処置
8		8	臨床模擬　後療法の種類と特徴
9		9	臨床模擬　運動療法の種類と特徴
10		10	臨床模擬　運動療法の選択
11		11	臨床模擬　運動療法の指導法
12		12	臨床模擬　後療法
13		13	臨床模擬　整復・初期処置・後療法
14		14	実技試験
15		15	まとめ

講義の進め方（指導方法）

・必要事項をスライドやプリントにまとめ共有する。
・グループワークで自ら考え、他者と共有し確認する。

成績評価（方法・基準）

実技試験を中心に評価する。

使用教材（教科書、教材等）

臨床実習ガイドライン、柔道整復学・理論編（第7版）、実技編（第２版）、リハビリテーション医学

年度	科目番号	科目名	分野	開講時期	学年	取得単位数
2024	3-17C	臨床実習ⅢC	専門	後期	3	2/3

講師名	実務経験・関連資格
長坂　愛	接骨院・整形外科勤務およびトレーナー活動の経験をもとに講義を行う。 柔道整復師免許・専科教員

講義目的

臨床現場で必要な知識・技術を把握する。職業理解を深め、資格取得後の自身の目標に役立て行動することができる臨床力を身につける。

講義内容

・実践的な評価（徒手検査）の理解を深める。
・テーピング、被覆包帯および固定包帯術をより実践的に修得できるよう繰り返し実施する。

前期授業計画		後期授業計画	
1		1	臨床実習の概説
2		2	臨床模擬　徒手検査
3		3	臨床模擬　徒手検査
4		4	臨床模擬　反射検査・感覚検査
5		5	臨床模擬　運動機能検査
6		6	臨床模擬　検査法の選択
7		7	臨床模擬　上肢テーピング
8		8	臨床模擬　下肢テーピング
9		9	臨床模擬　体幹テーピング
10		10	臨床模擬　固定材料を用いた上肢包帯法
11		11	臨床模擬　固定材料を用いた下肢包帯法
12		12	臨床模擬　固定材料を用いた体幹包帯法
13		13	臨床模擬　テーピングおよび包帯法
14		14	期末試験
15		15	まとめ

講義の進め方（指導方法）

・必要事項をスライドやプリントにまとめ共有する。
・グループワークで自ら考え、他者と共有し確認する。

成績評価（方法・基準）

期末試験を中心に評価する。

使用教材（教科書、教材等）

臨床実習ガイドライン、柔道整復学・理論編（第7版）、実技編（第 2 版）、リハビリテーション医学